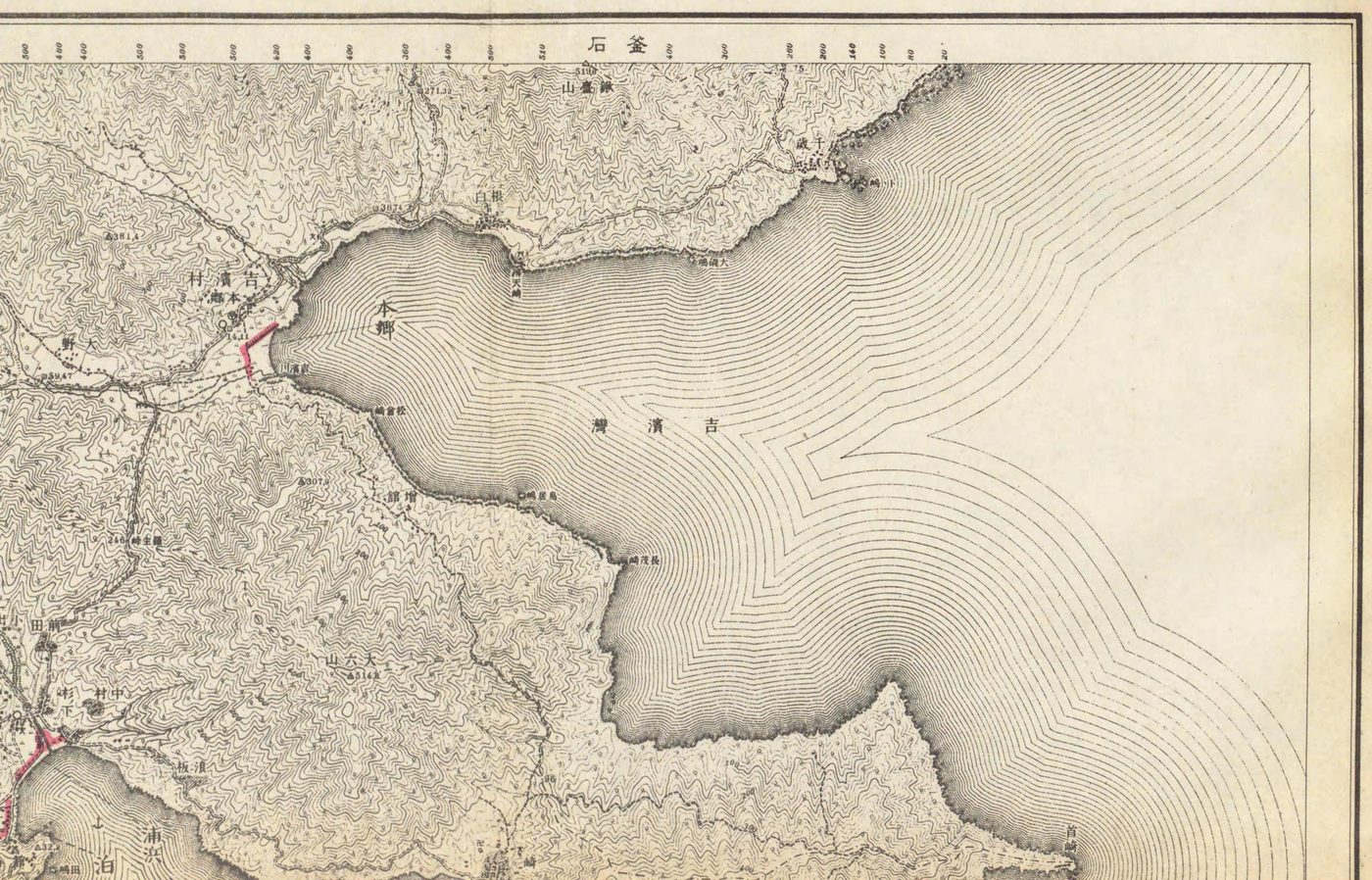
里綾

石釜
大窪山
吉本郷村
本郷
吉濱灣
白根
大六山
立根村
中村
杉下
出口
喜泊
浦泊
板濱
山出今
大窪
野大
館増
山臺鉾
大嶋
小嶋
長嶋
川濱
峠生藤
峠川
峠島鳥
峠島鳥
峠倉松
峠島鳥
峠島鳥
峠島鳥

綾里



尺之一分万五

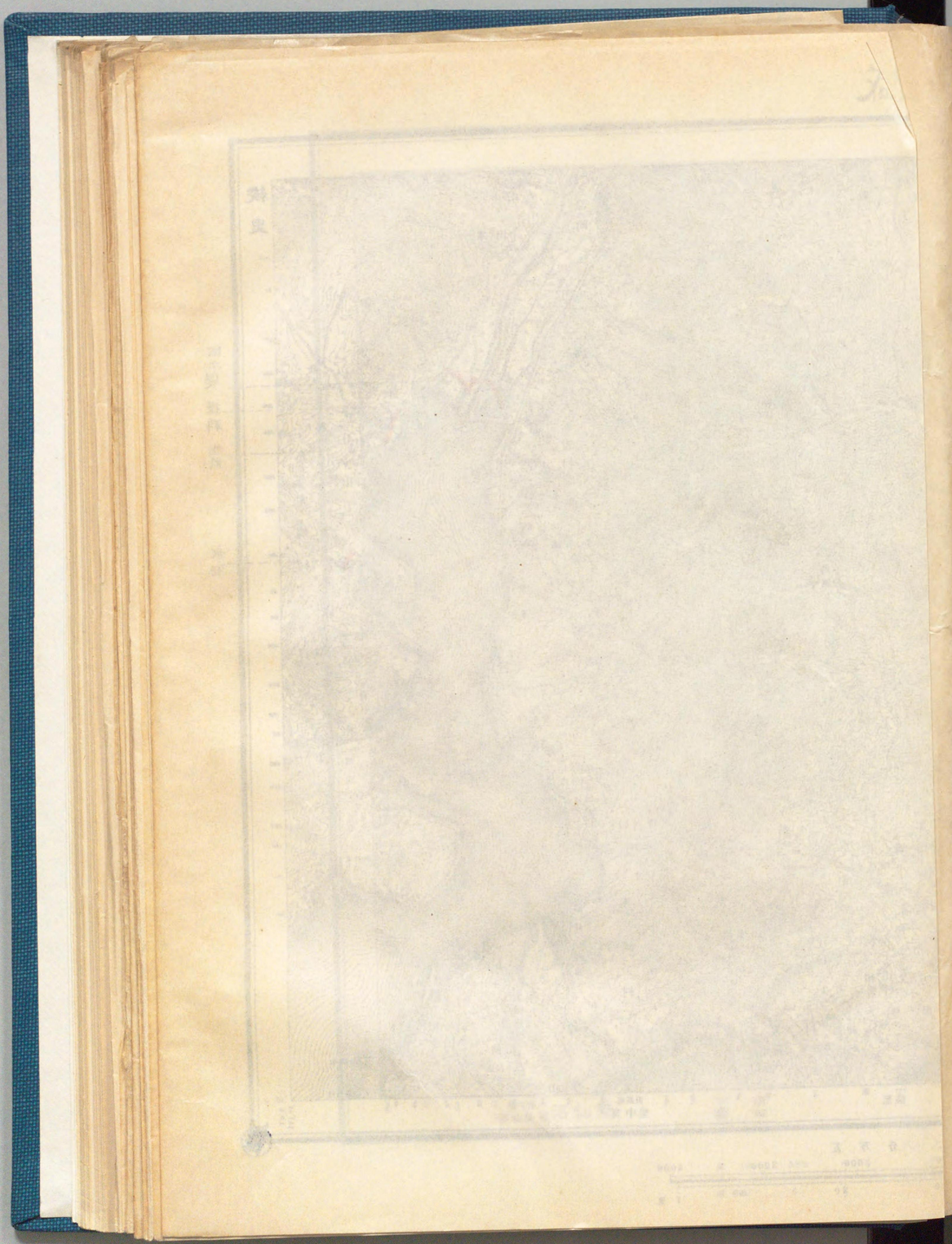
米 1000 500 0 1000 2000 3000 4000

町 10 5 0 10 20 30 1 里

尺之一分万五

米 1000 500 0 1000 2000 3000 4000

町 10 5 0 10 20 30 1 里



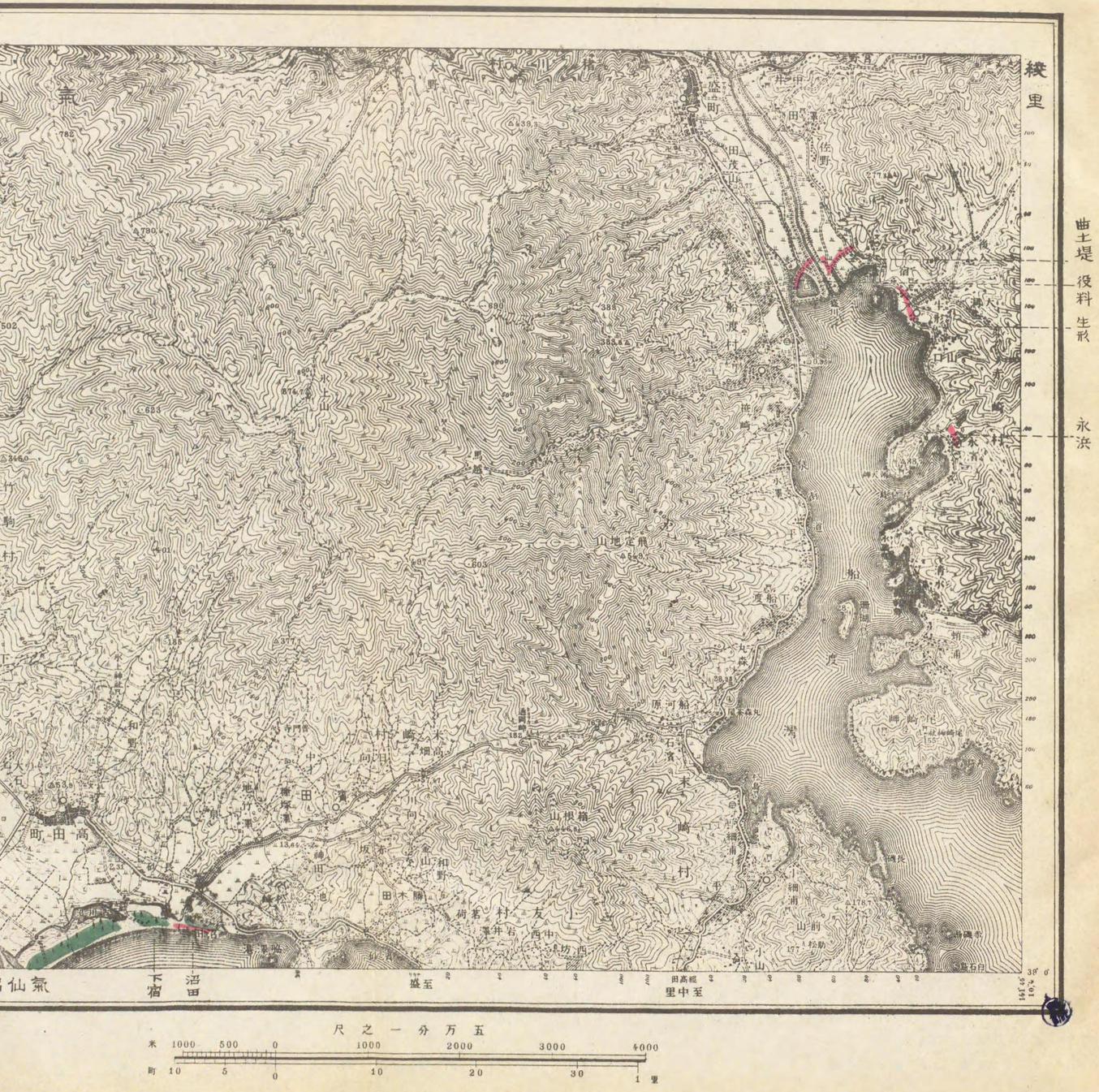
盛

尺之一分万五

米 1000 500 0 1000 2000 3000 4000

町 10 5 0 10 20 30 1里

盛

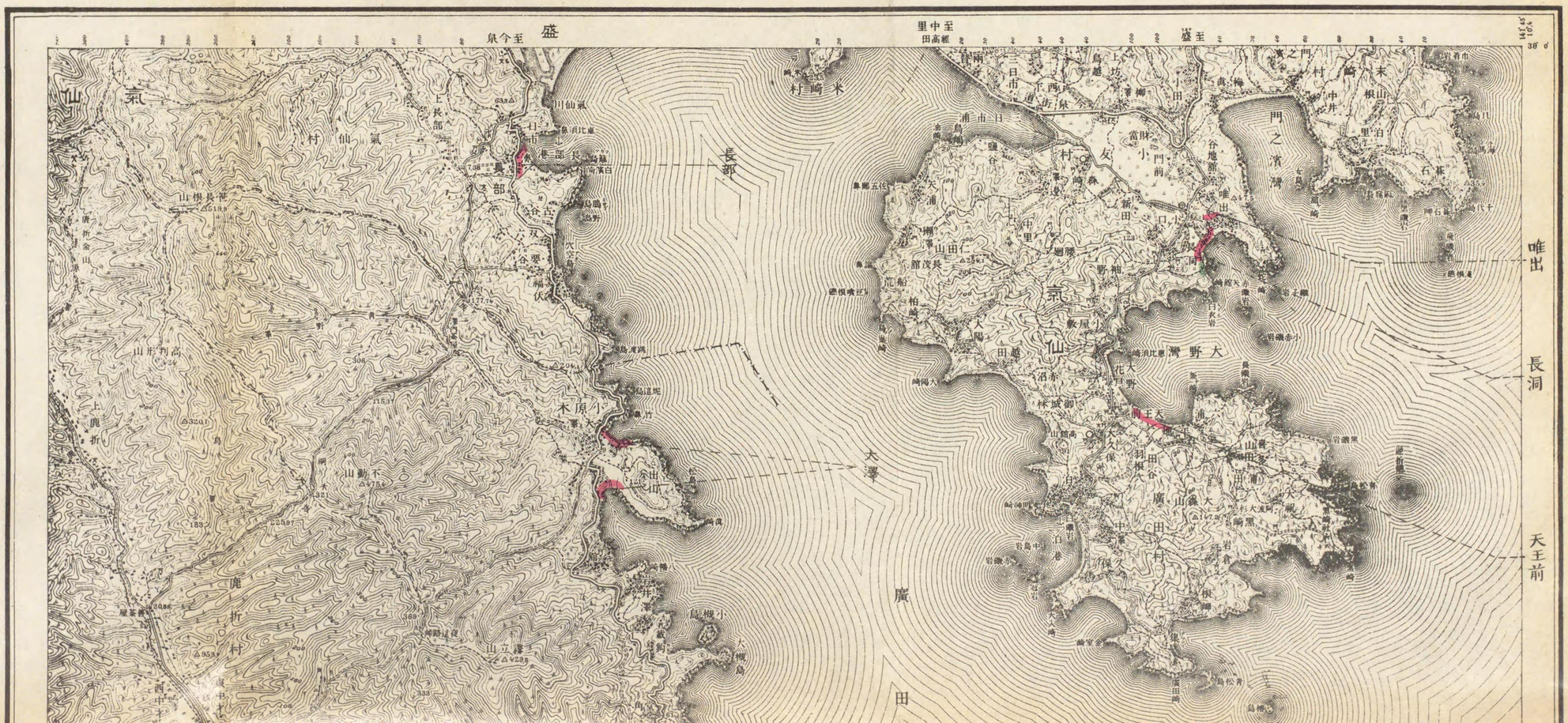


綾里
曲土堤
役料
生形
永浜
氣仙
下宿
沼田
至盛
至中里
五万分一之尺
米 1000 500 0 1000 2000 3000 4000
町 10 5 0 10 20 30 1 里

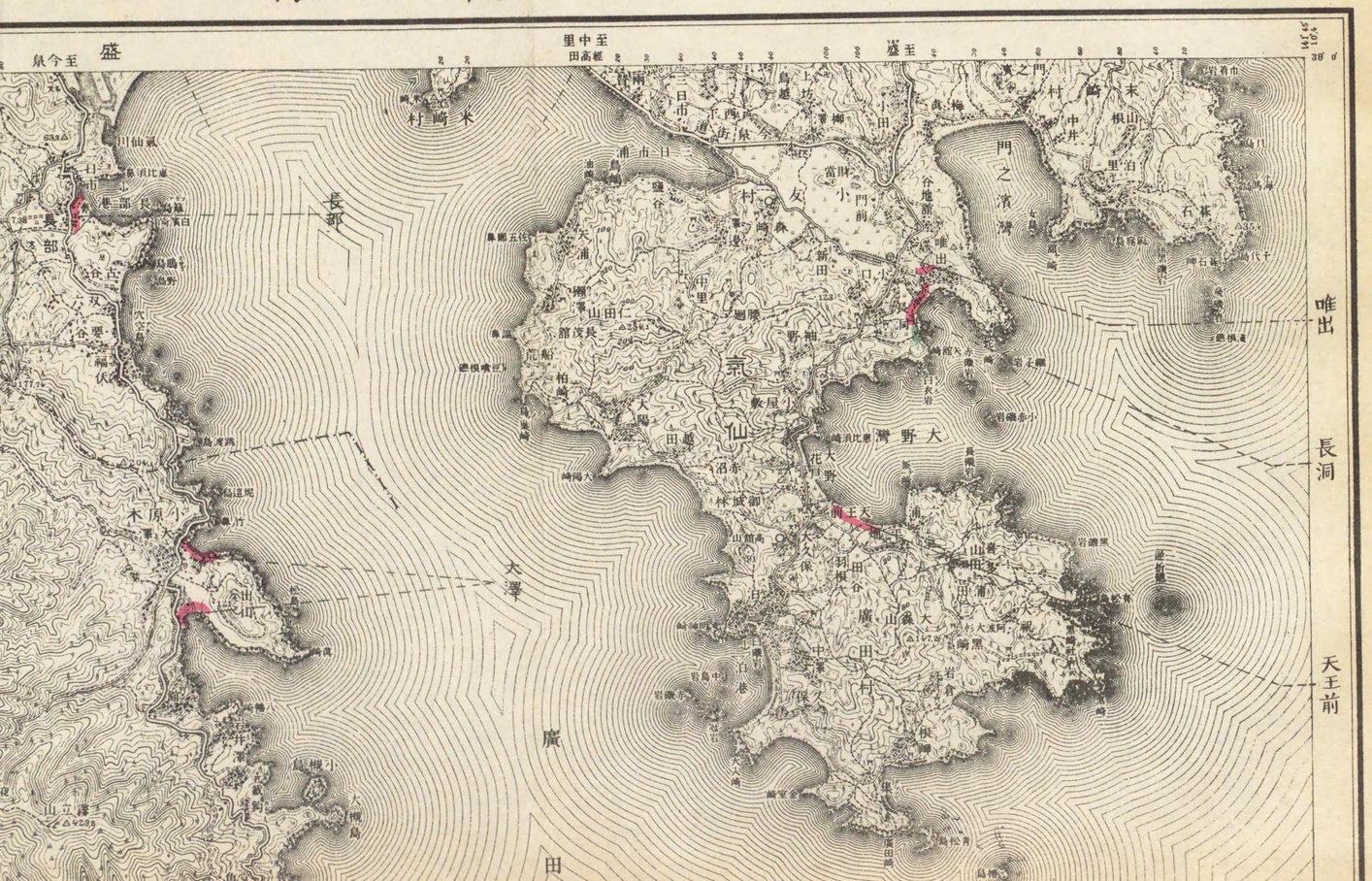
曲土堤 復料 生戰

永濱

氣仙沼


盛
至今泉
至中里
田高經
至盛
唯出
長洞
天王前
氣仙沼
仙氣村
長部
六角谷
小原木
出口
太平
廣田
鹿折村
大野灣
唯出
大久保
田谷原
山田村
門之濱灣
末崎村
本崎村
三日市浦
大浦
新田口
柏崎
大陽
田越
沼赤
林城御
羽根六
白岩
根岸
廣田崎
小島
大島
小槻島
大槻島
山根長神
山形判高
山動木
山立藤
上長部
下長部
西中井
中井
石森
十代石
岩井崎
岩崎
岩礁赤
岩礁黒
岩礁根
岩礁
岩島中
岩島
岩倉
岩壁
岩市
岩着市
岩着
岩石
岩
巖
巖根
巖
巖
巖

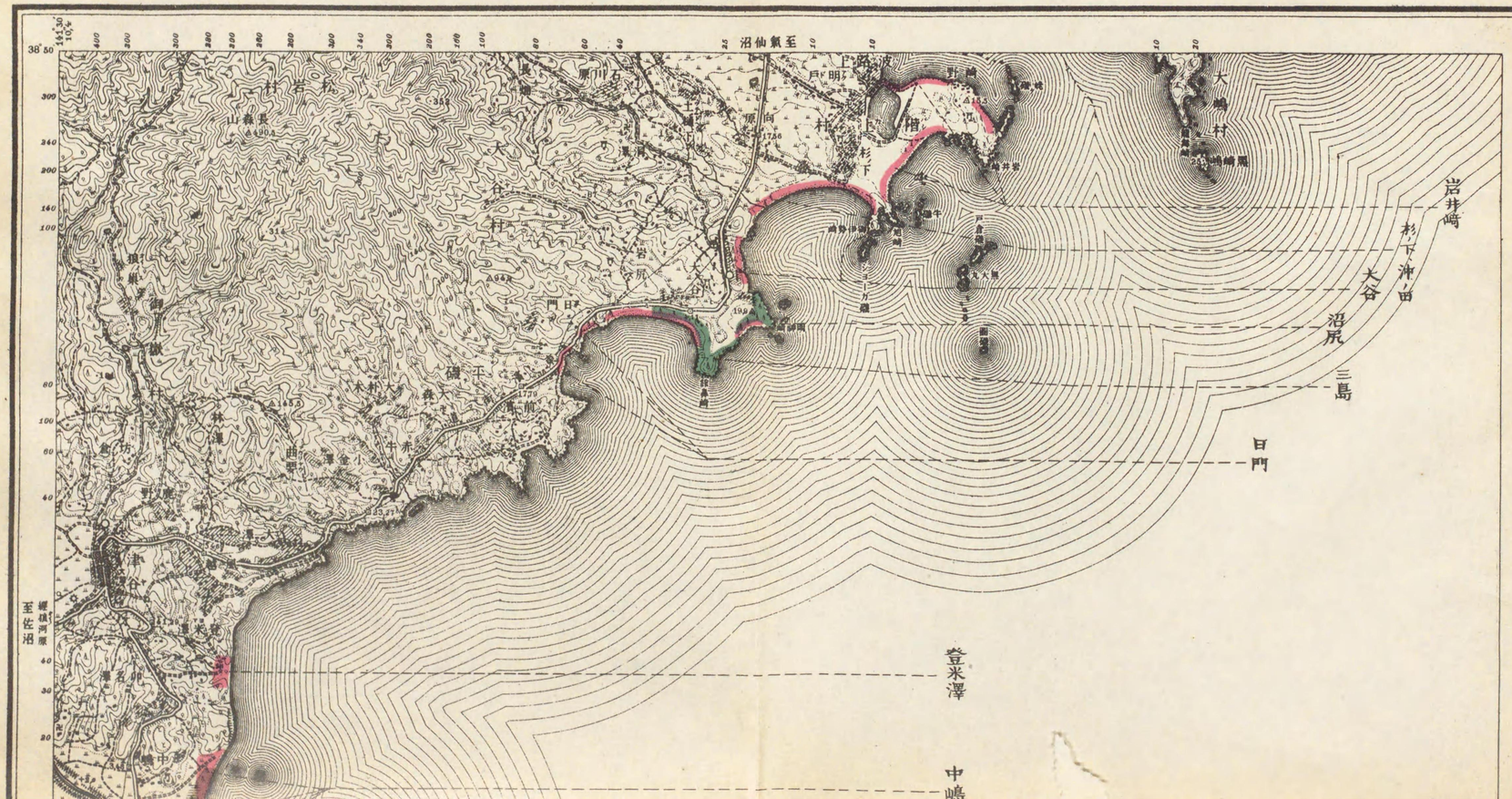
氣仙沼



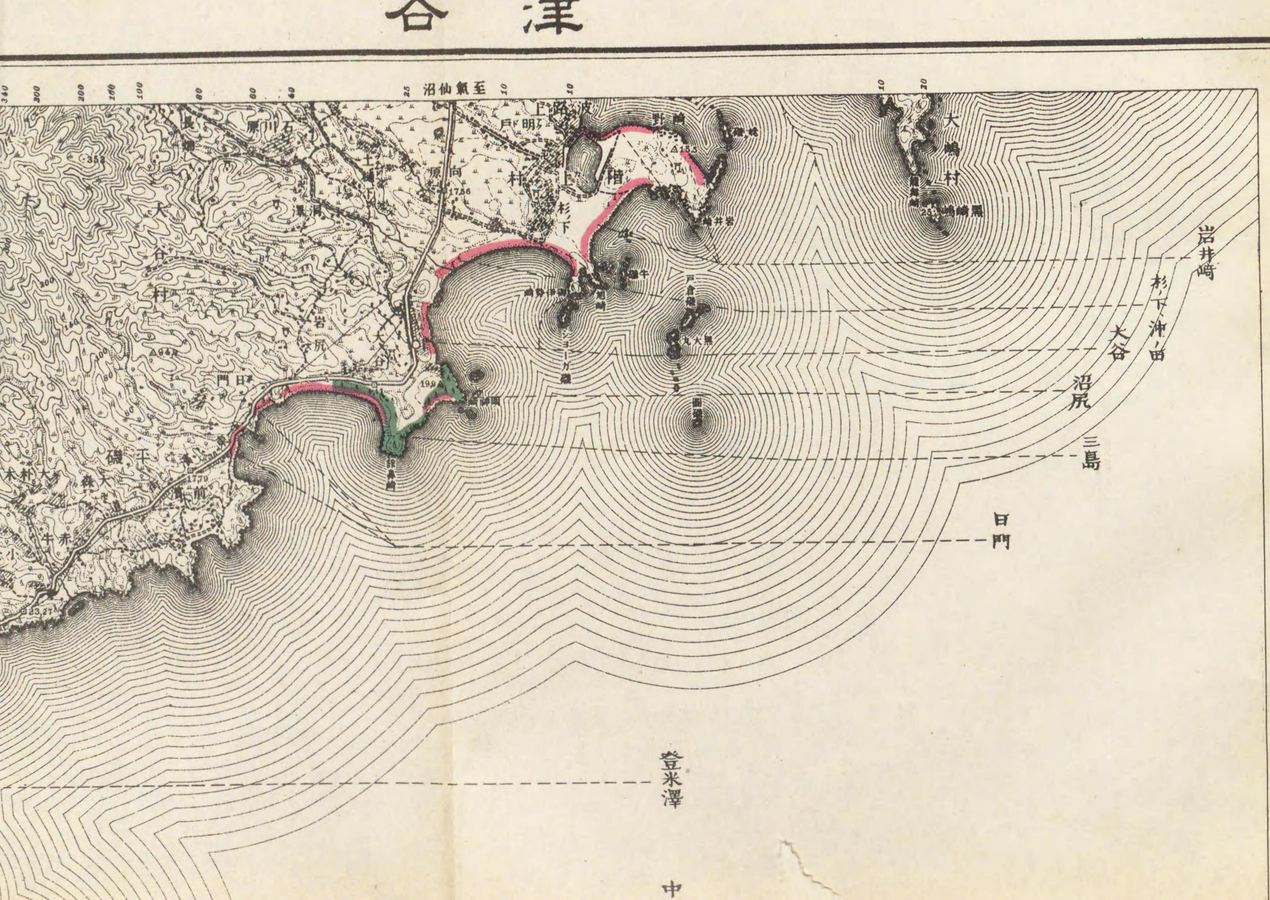
只越
白浜
石浜
明戸
馬場
宿
浦
舞根
笹浜
小鯖
鶴ヶ浦
廻舘
中山
浅根
田
湾
本
吉
町
沼
仙
氣
仙
沼
湾
片岸尾崎
尾崎千岩
台
澤
津
谷
至志津川
尺之一分万五
米 1000 500 0 1000 2000 3000 4000
町 10 5 0 10 20 30 1里

只越
灣
白浜
石浜
明戸
馬場
宿浦
舞根
笹浜
小鯖
鶴ヶ浦
廻舘
中山
淺根
五万分一之尺
500 0 1000 2000 3000 4000
5 0 10 20 30 1里

津谷



津谷



中嶋

二十一今朝磯

港

田浦

石浜

中山

馬場

泊、稲淵

管浜

尺之一分万五

米 1000 500 0 1000 2000 3000 4000

町 10 5 0 10 20 30 1里

中嶋

二十一今朝歳

港

田ノ浦

后浜

中山

馬場

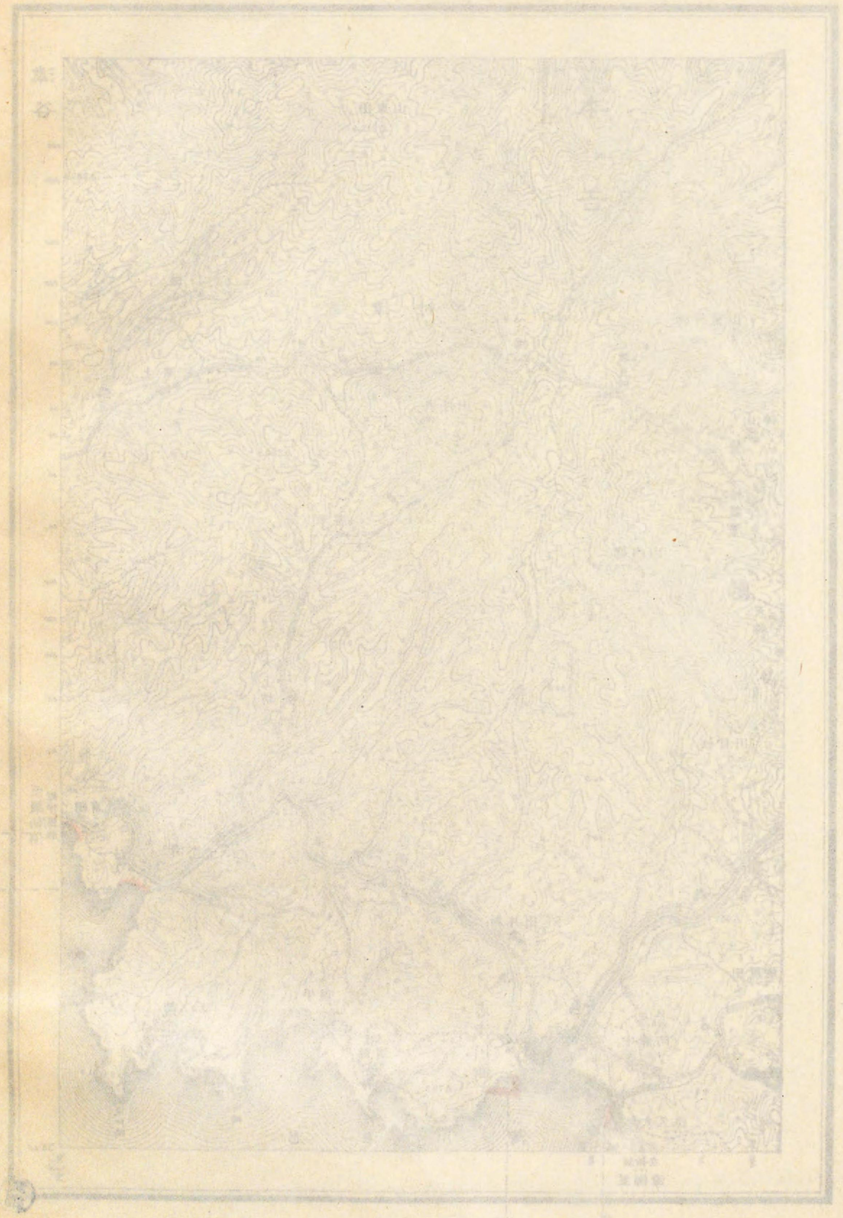
泊、稲淵

菅浜

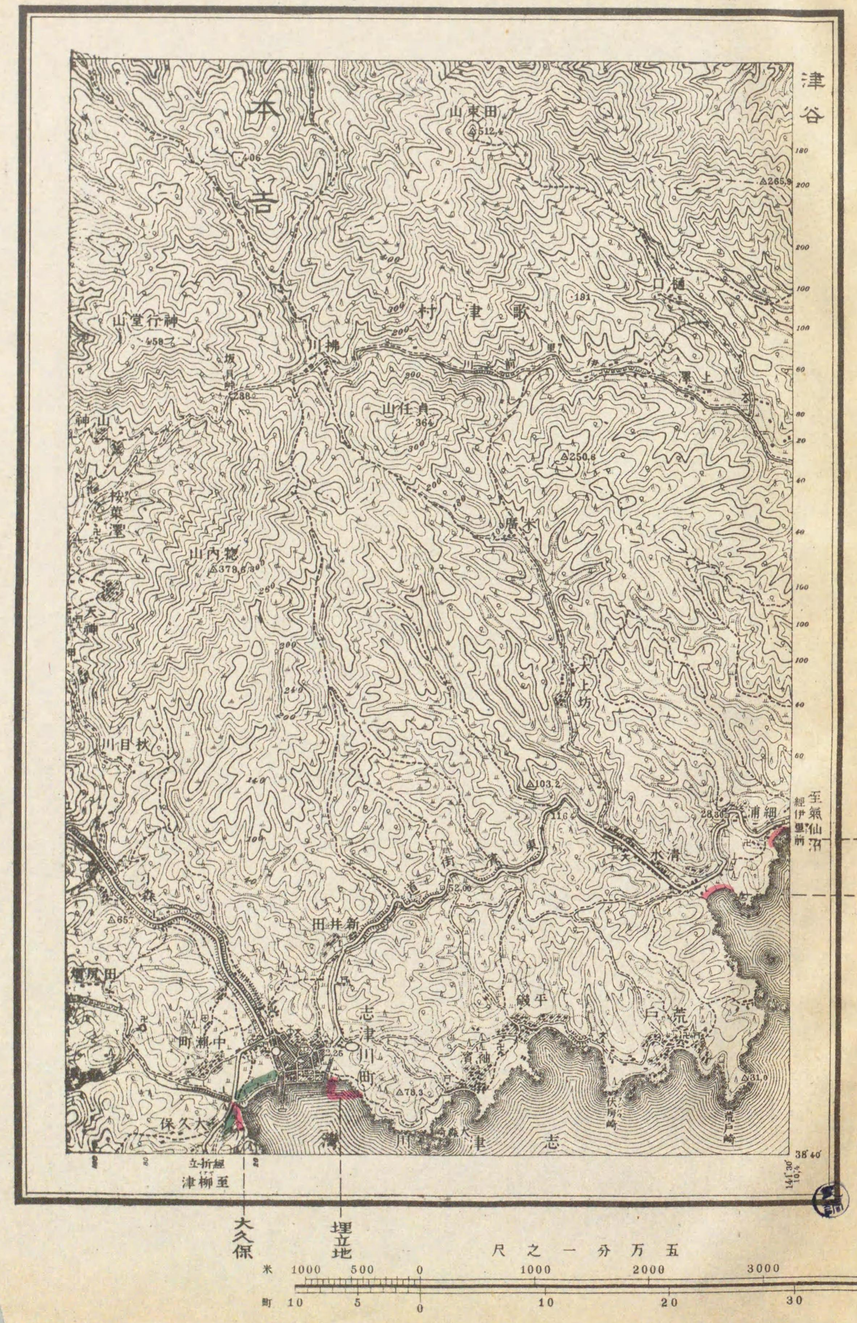
五万分一之尺

米 1000 500 0 1000 2000 3000 4000

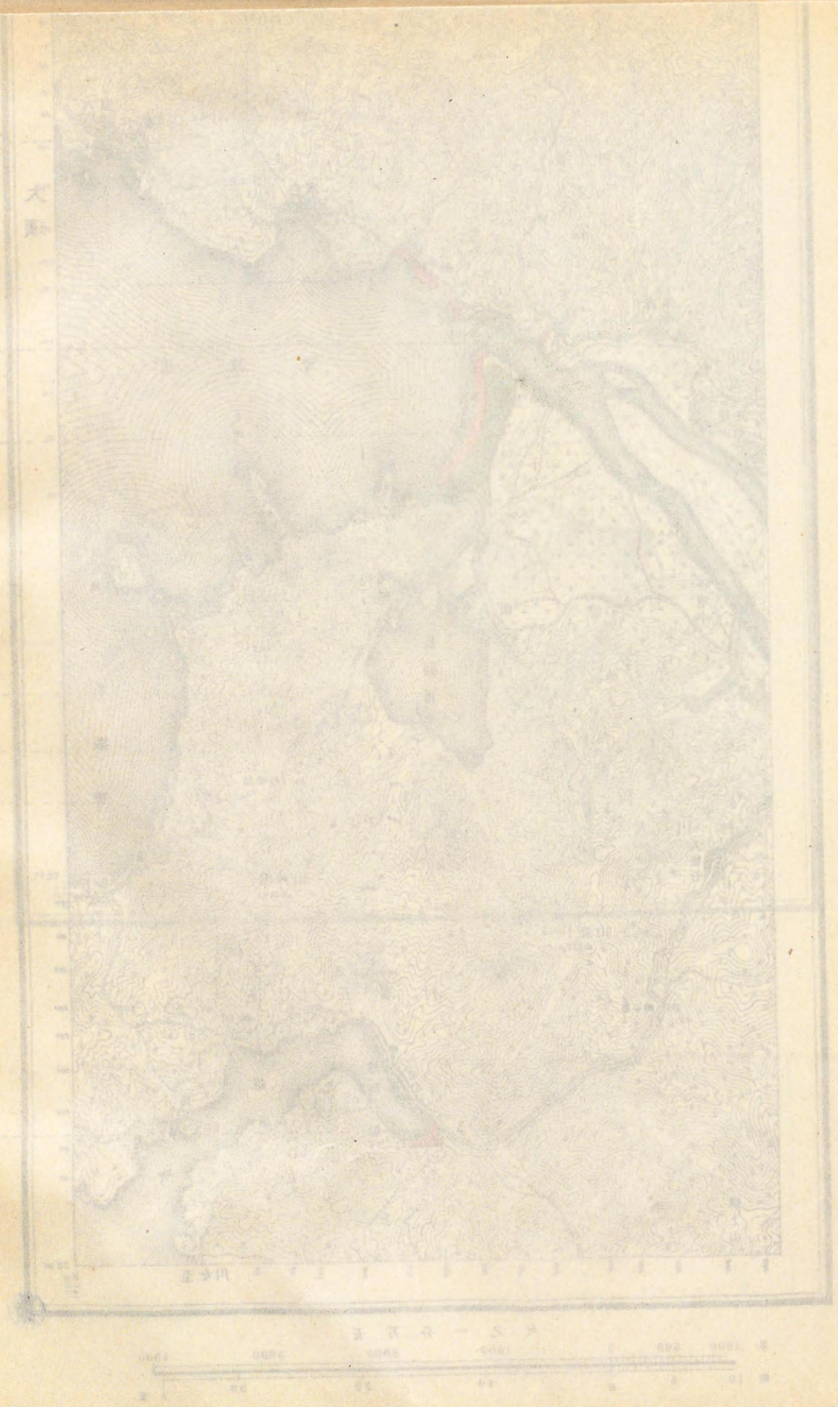
町 10 5 0 10 20 30 1里



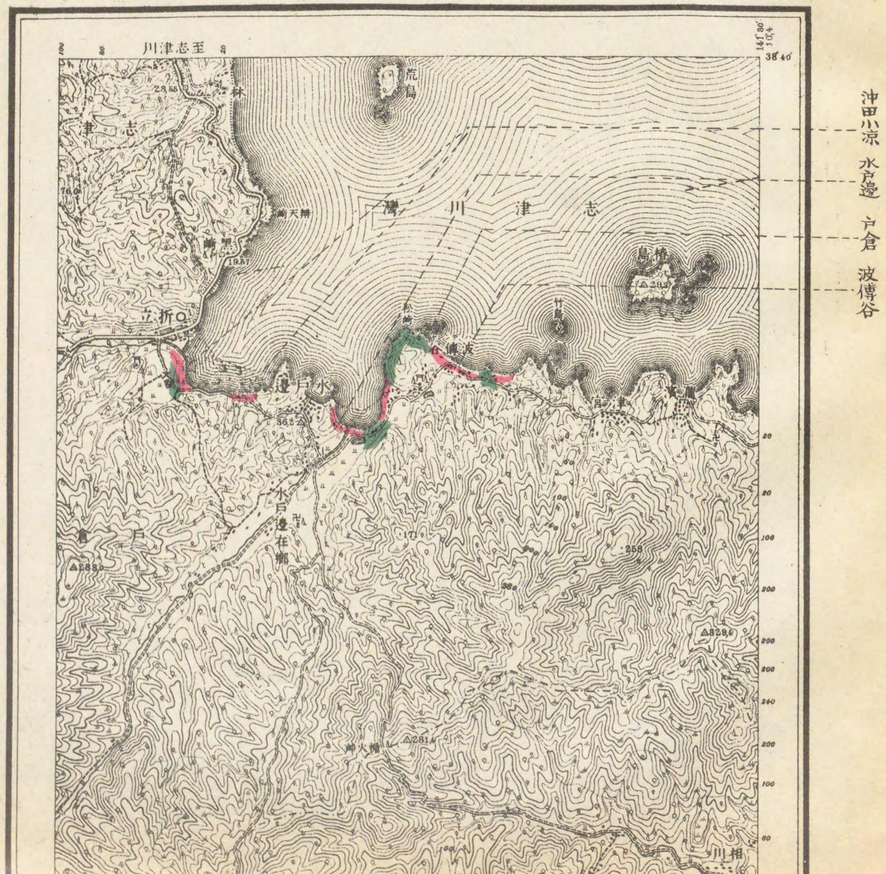
川津志

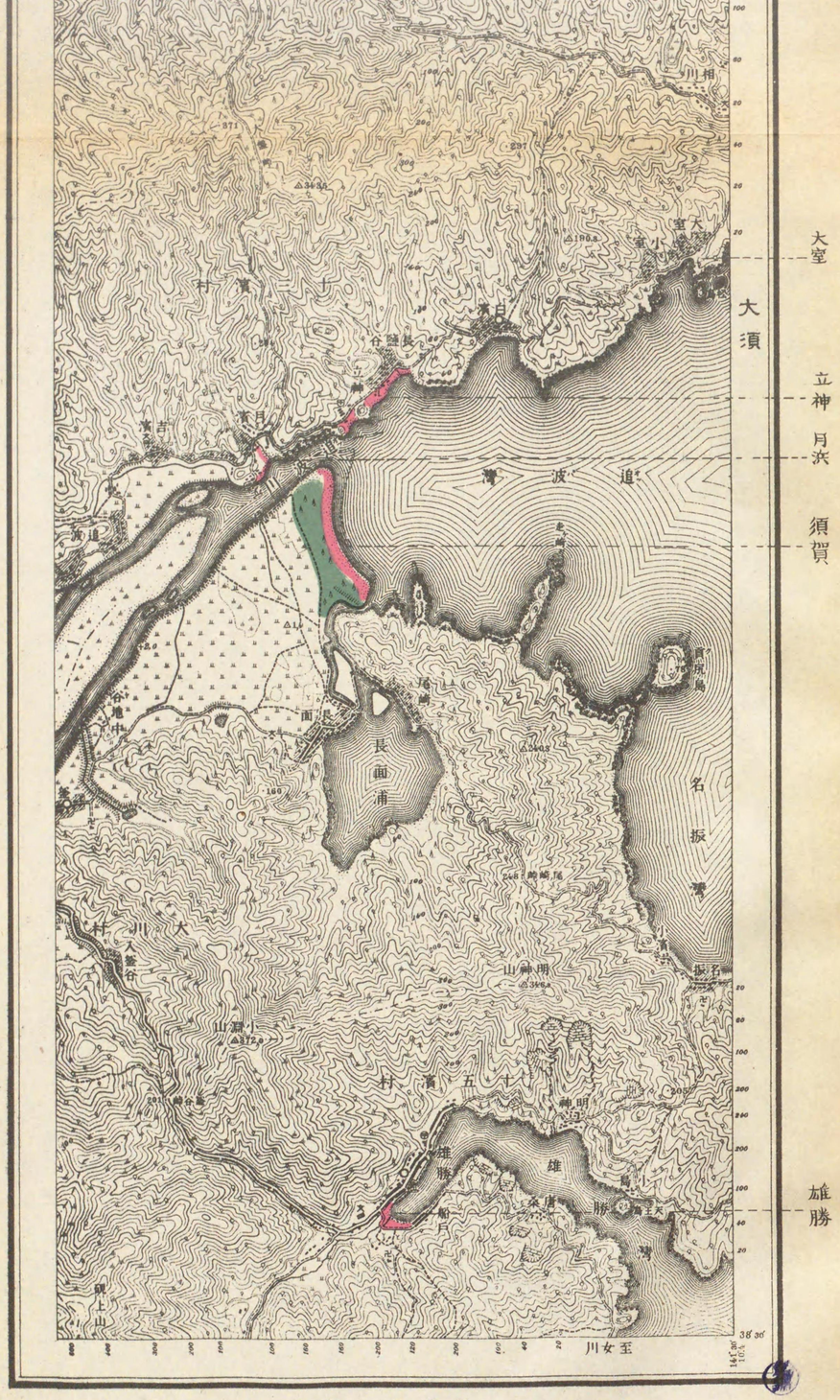


津谷
本吉
山東田
村津歌
山任員
山内穂
川目杖
細浦
清水
至熱仙沼
至柳津
大久保
埋立地
五万分一之尺
米 1000 500 0 1000 2000 3000 4000
町 10 5 0 10 20 30 1 里



米登

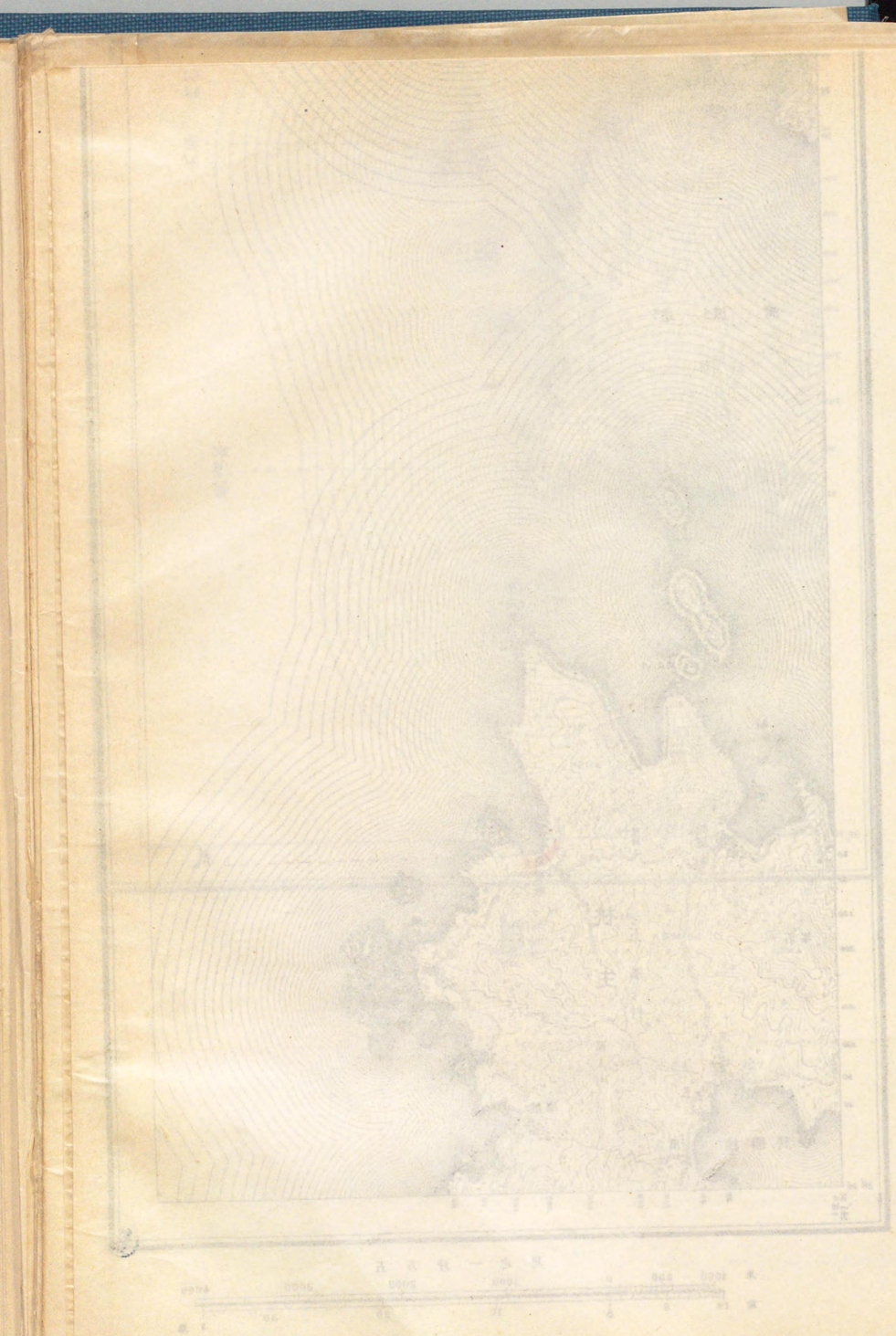




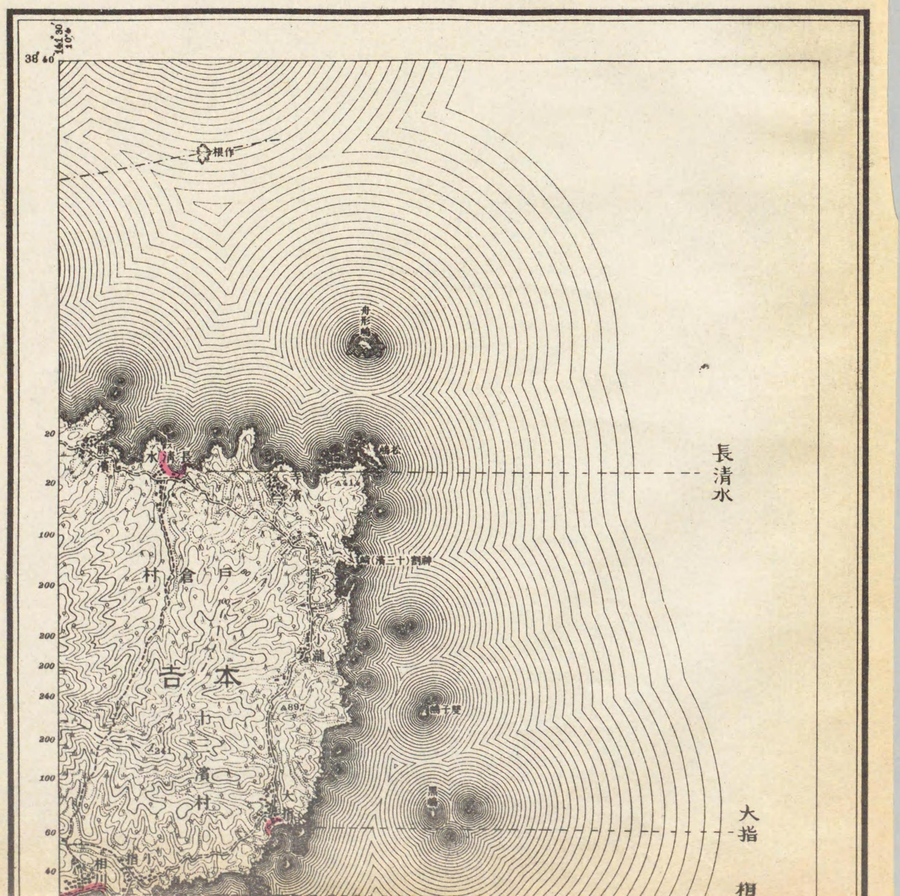
五万分一之尺

米 1000 500 0 1000 2000 3000 4000

町 10 5 0 10 20 30 1 里

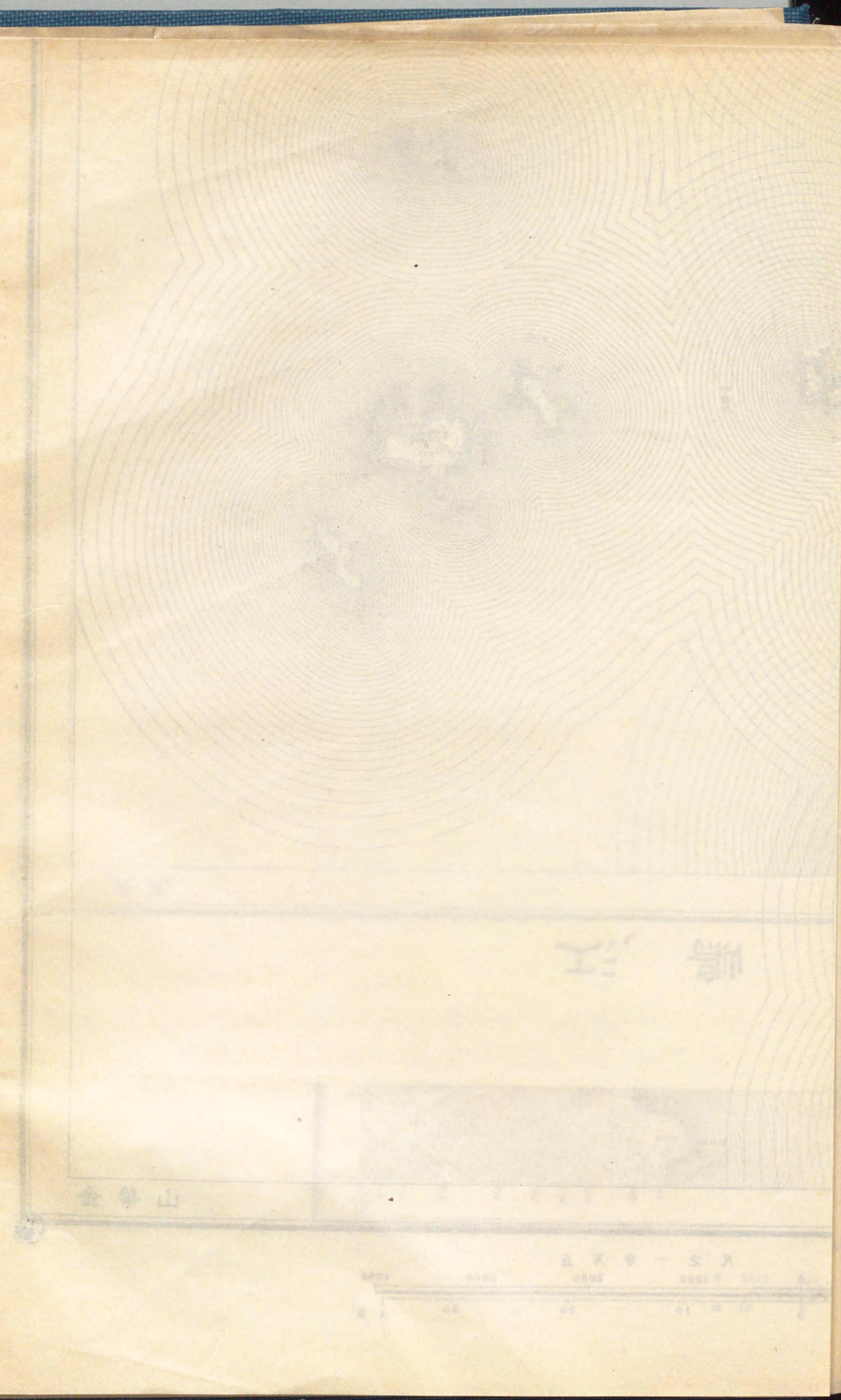


大須

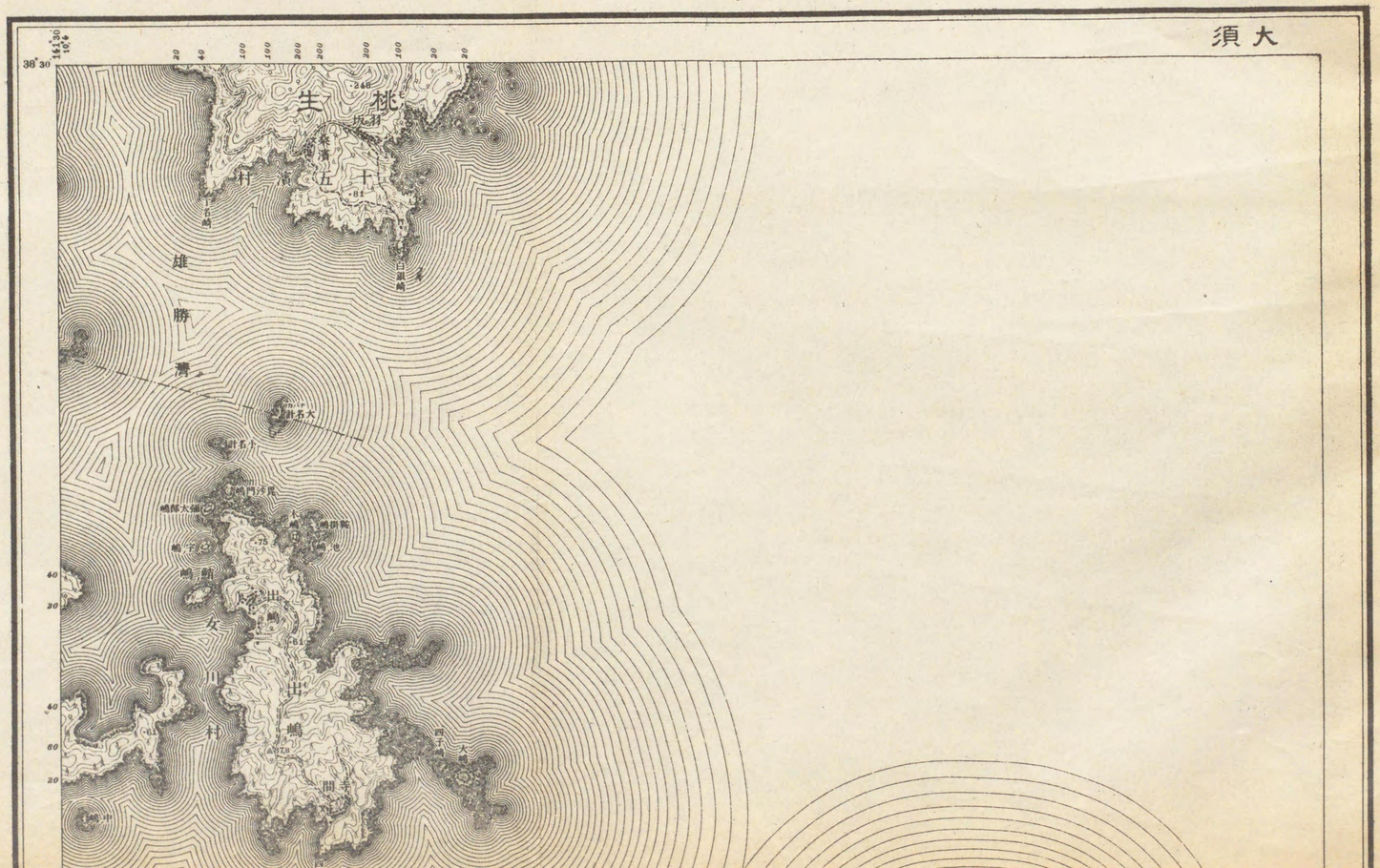


尺之一分万五

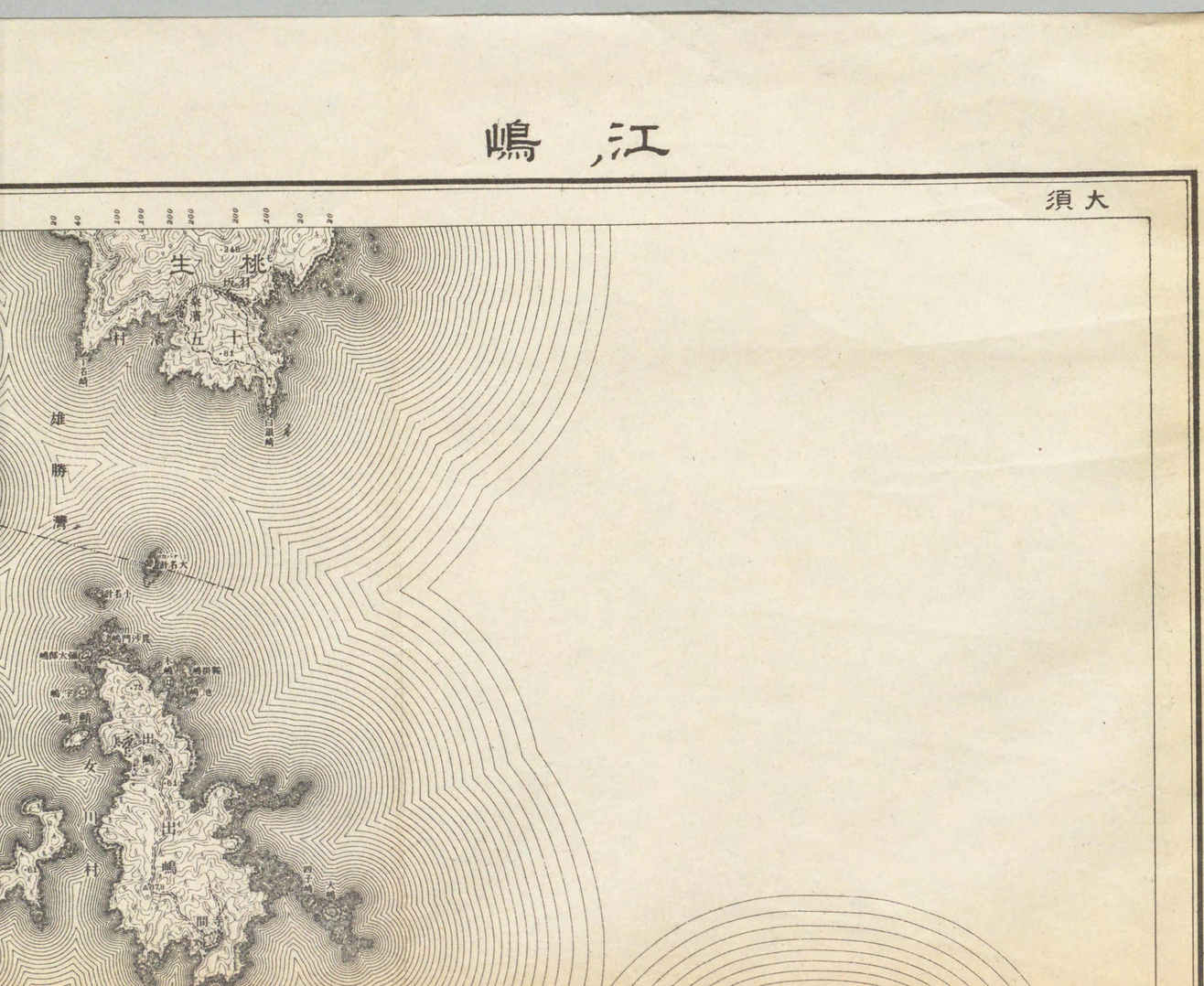
米	1000	500	0	1000	2000	3000	4000	
町	10	5	0	10	20	30	1	里

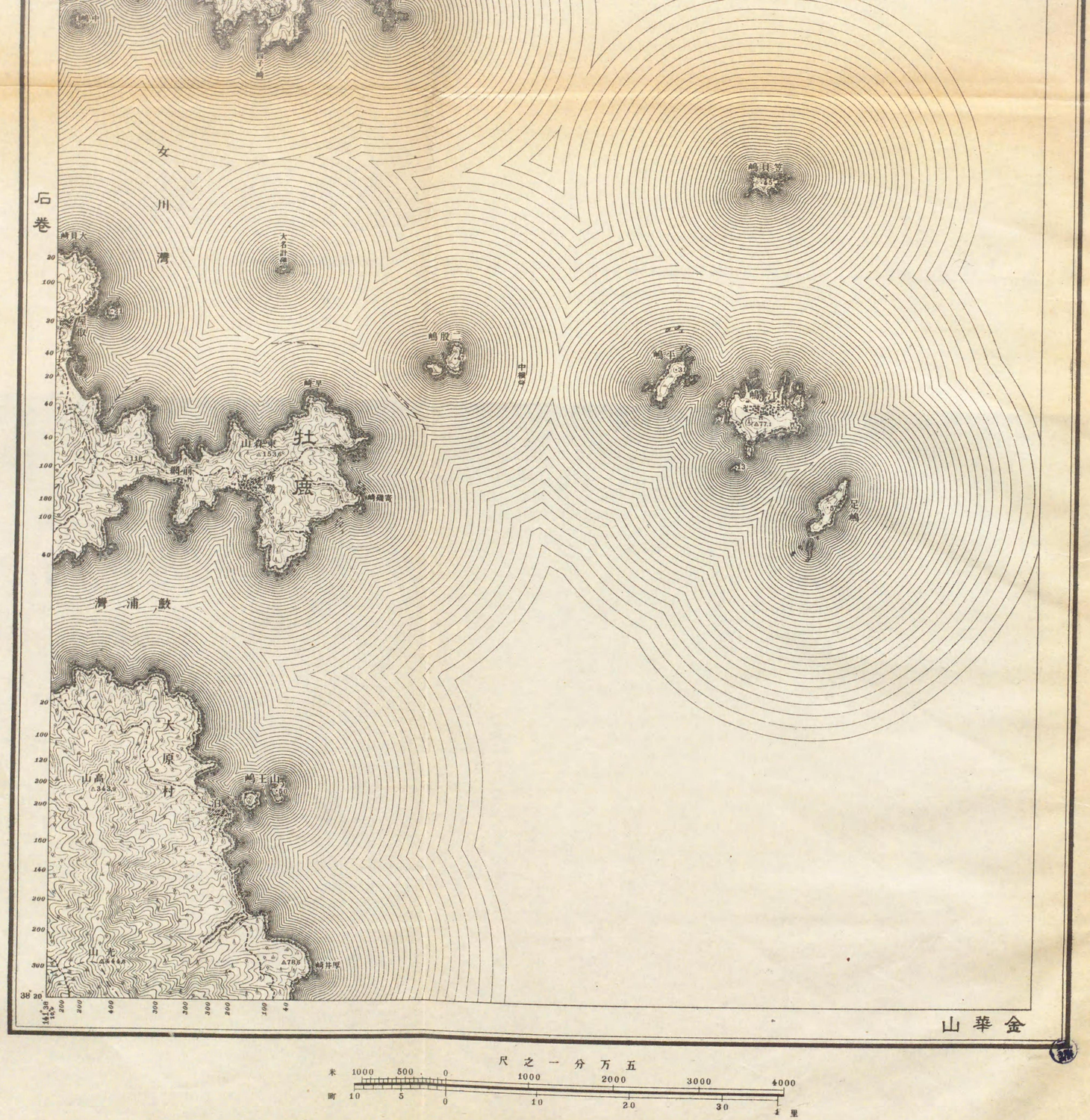


嶋江



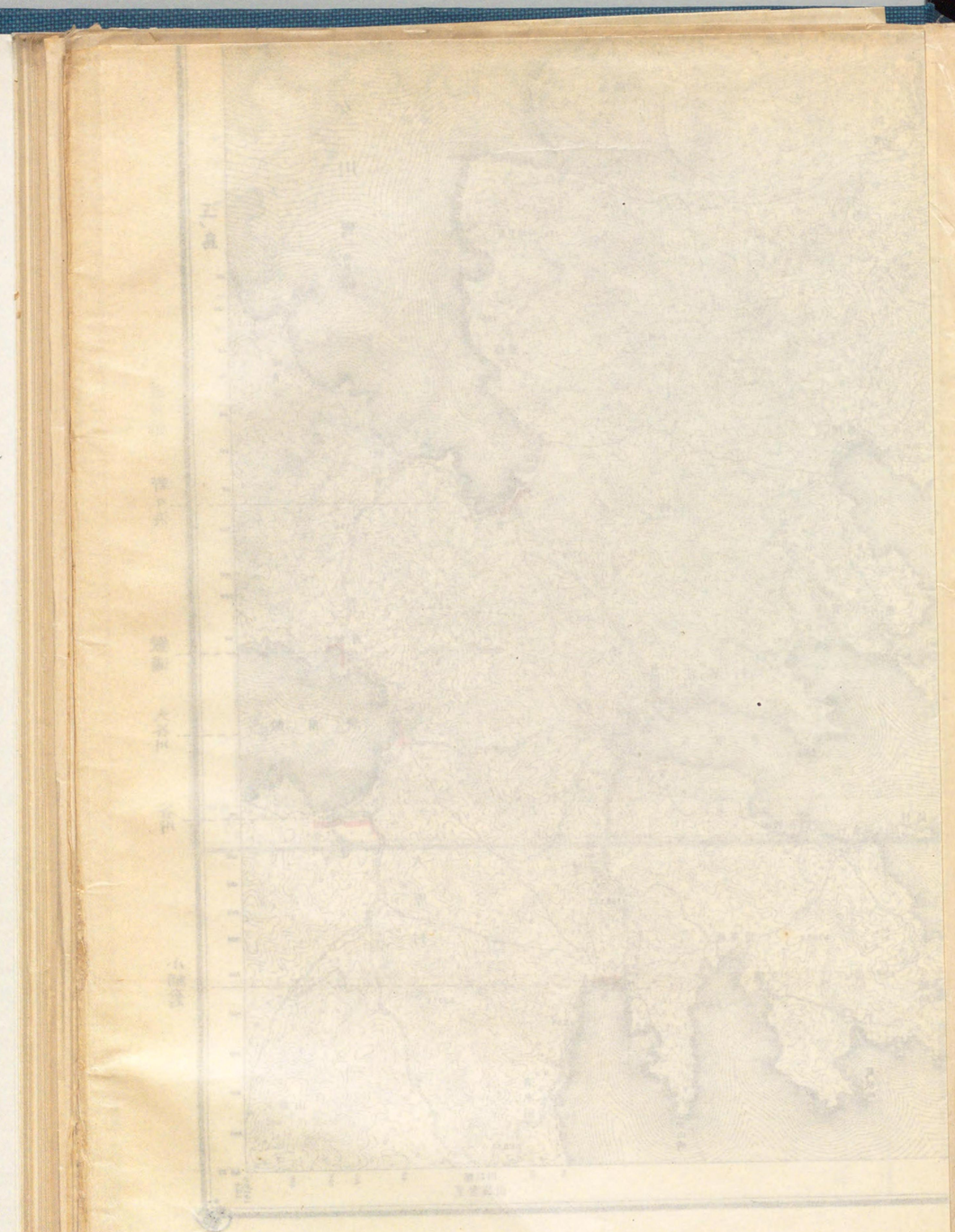
嶋江



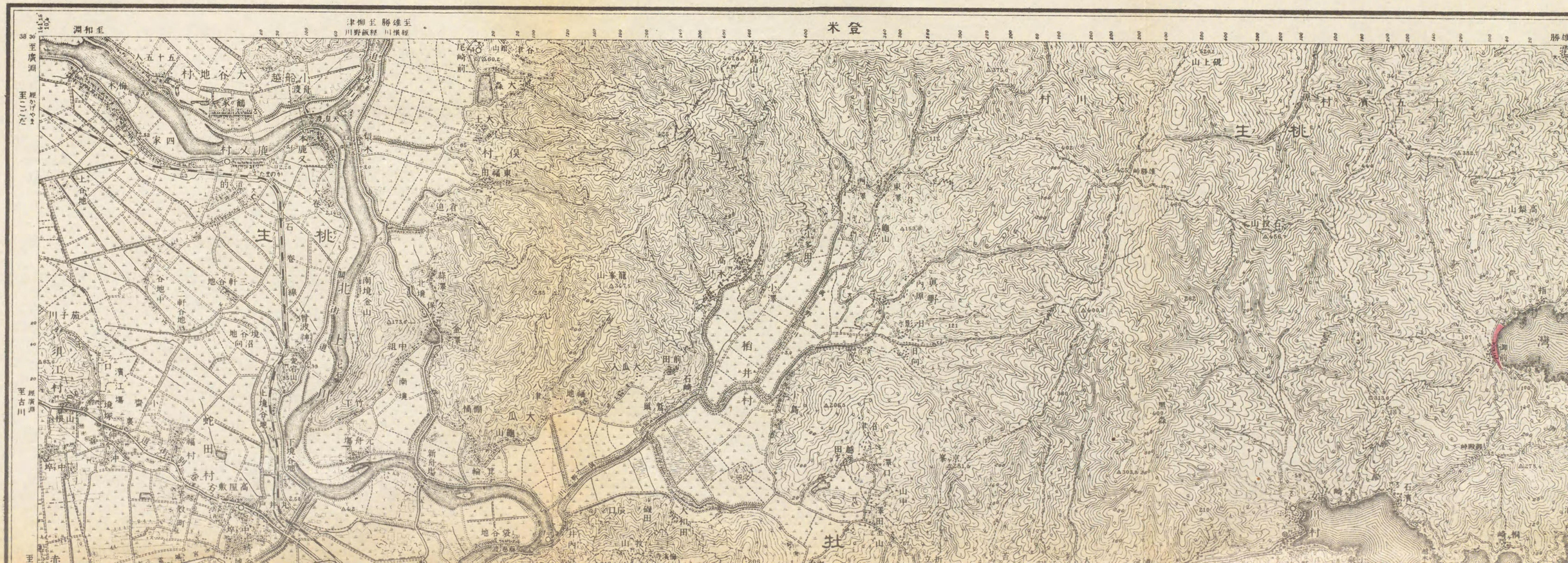


石巻
女川灣
大名計鋪
牡鹿
鮫浦灣
大原村
山高
山光
金華山
五万分一之尺
米 1000 500 0 1000 2000 3000 4000
町 10 5 0 10 20 30 1 里

壮瞥
山徳
△1536
△1181
△785
△771
△778
△778
△778

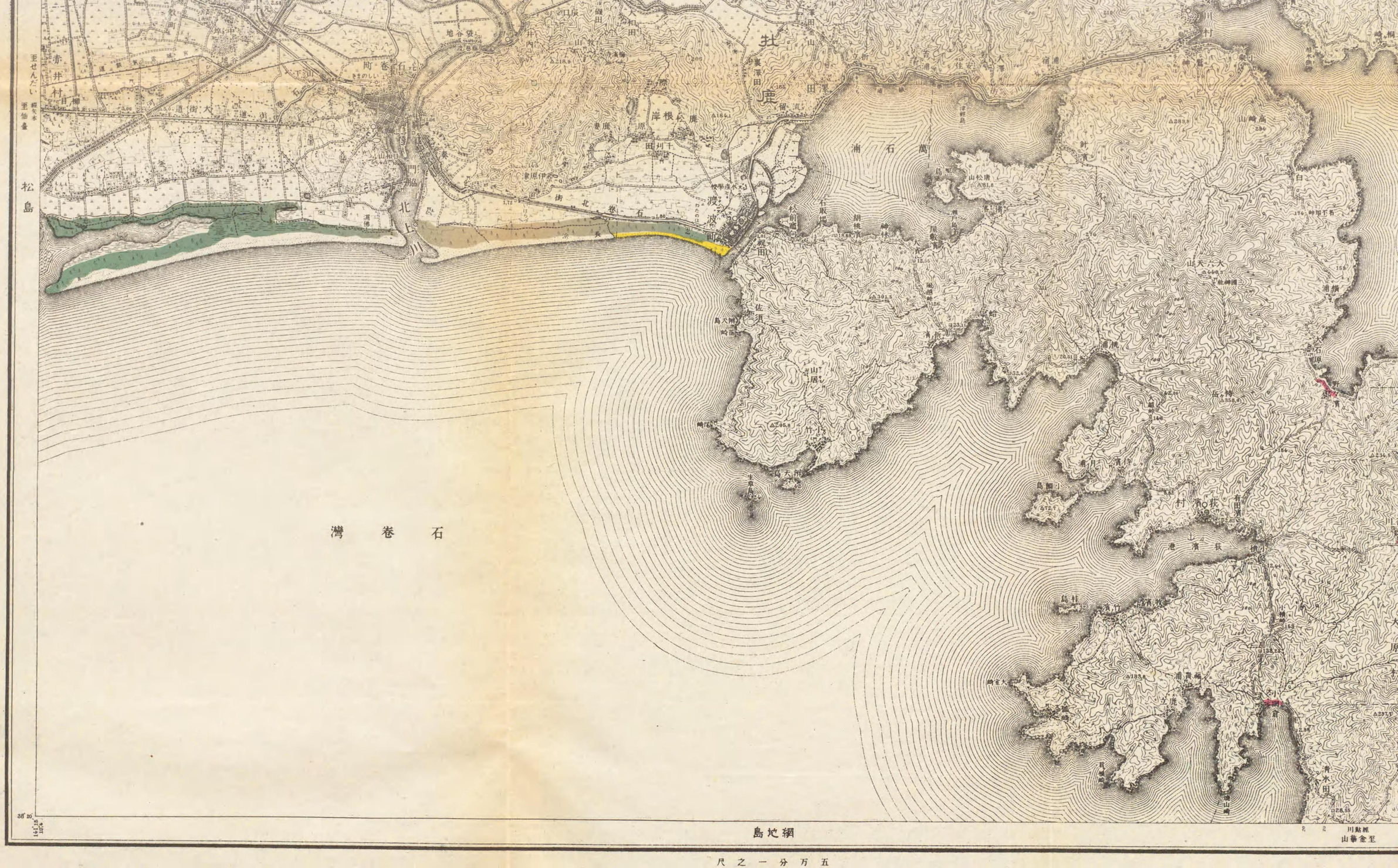


石巻



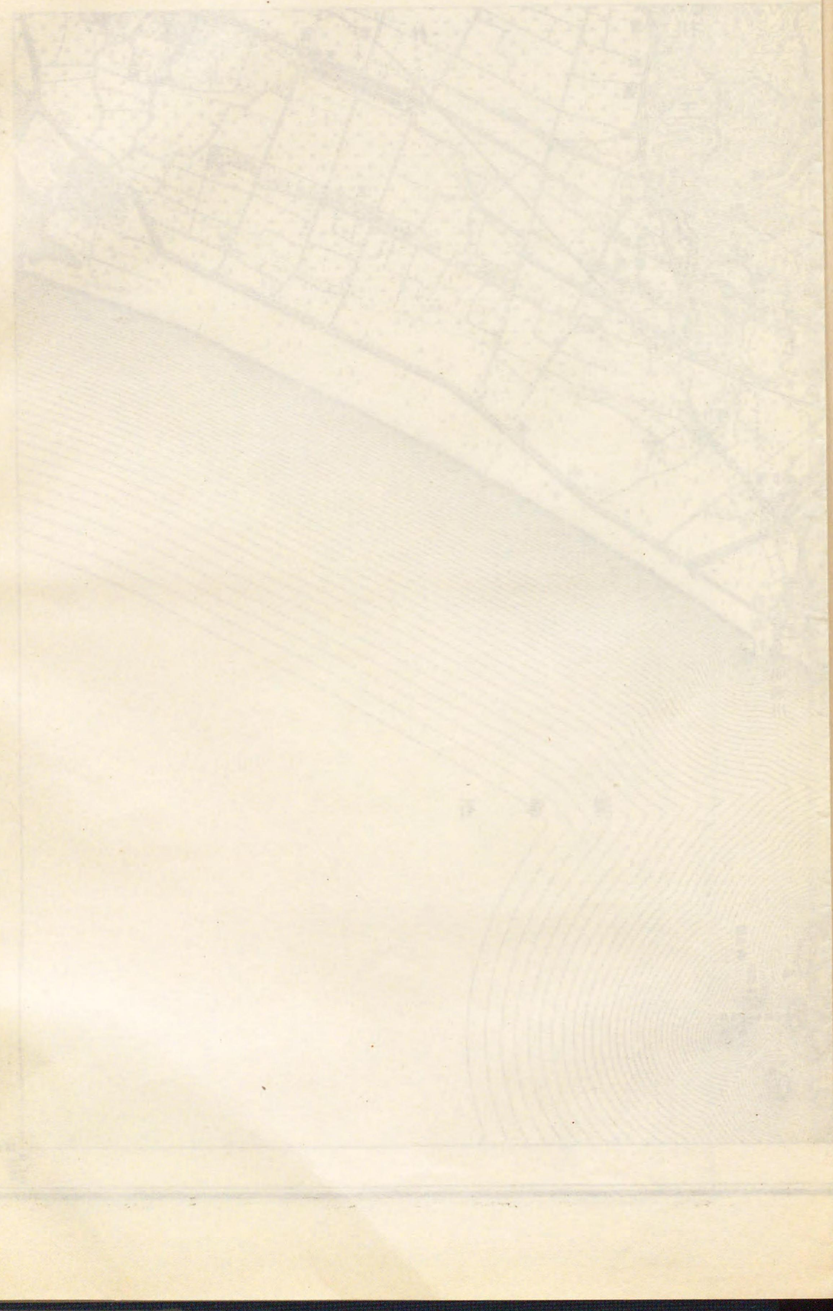
登米
至和淵
至雄勝 至柳津
經横川 經飯野川
至廣淵
經かげやま
至ここだ
經廣淵
至古川
大谷地村
鹿又村
大川村
桃生
桃生
桃生
北上川
大瓜
稲井村
蛇田村

御前浜

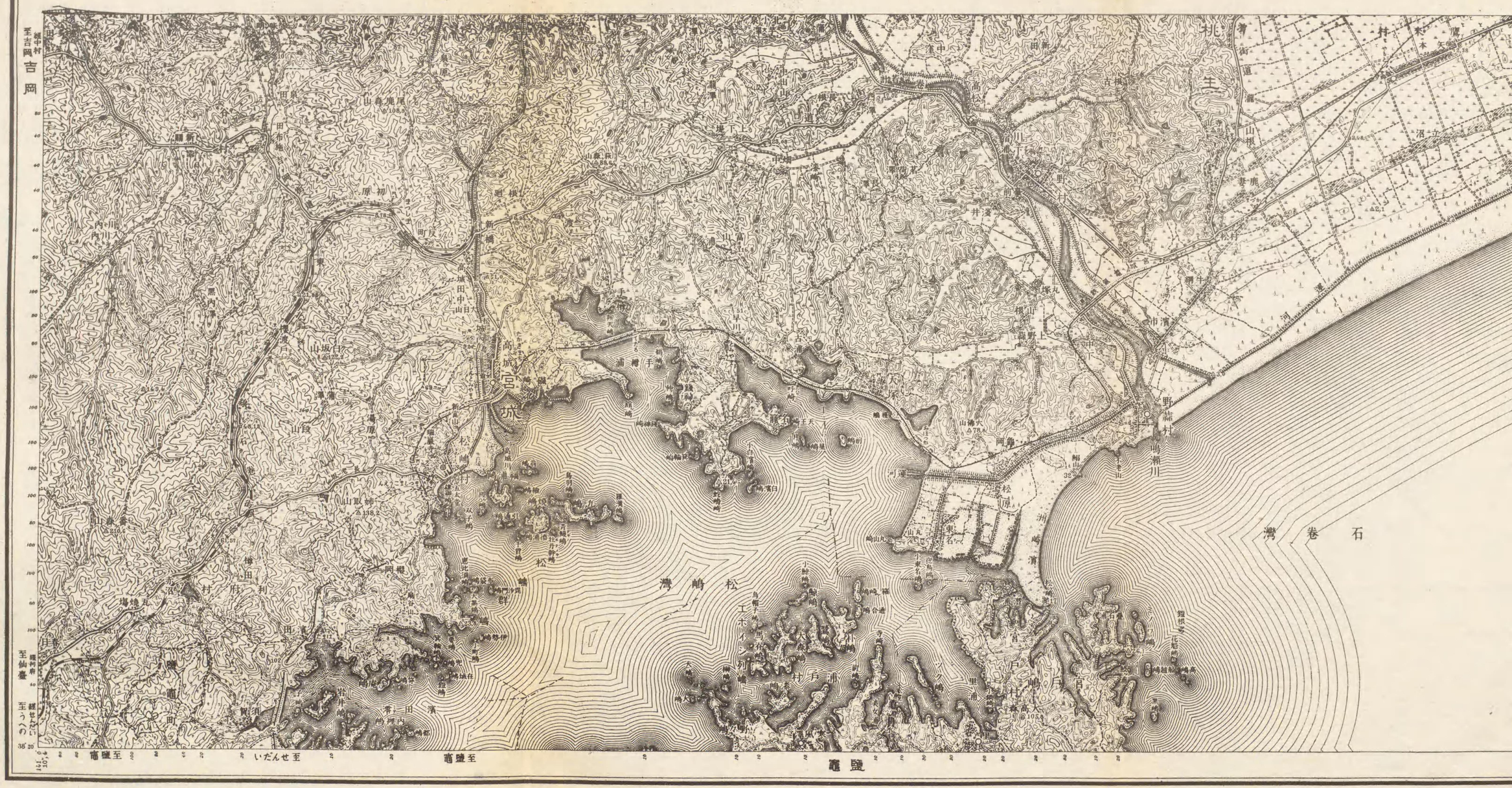


至せんだい
經矢本
至仙臺
松島
石巻灣
網地島
至金華山
經鮎川
五万分一之尺
米 1000 500 0 1000 2000 3000 4000
町 10 5 0 10 20 30 1 里

江ノ島
野々浜
鮫浦
大谷川
谷川
小網倉
女川灣
大原村
鮫浦灣
大六天山
山崎高
山松唐
岳崎
小網倉
大草山
青水田
3000
4000
30
1 里



鳴松

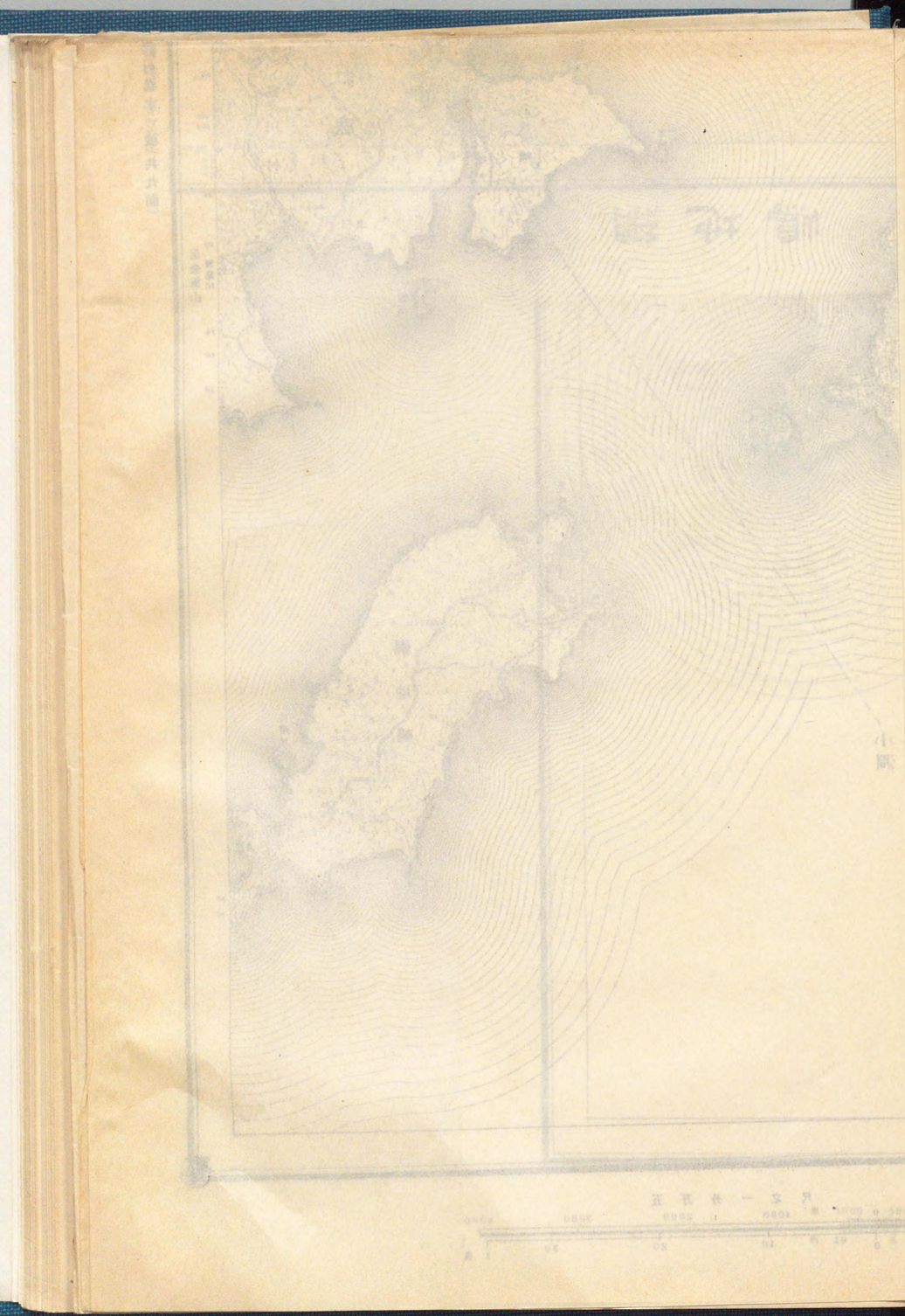


尺之一分万五

米 1000 500 0 1000 2000 3000 4000

町 10 5 0 10 20 30 里

松



網地嶋

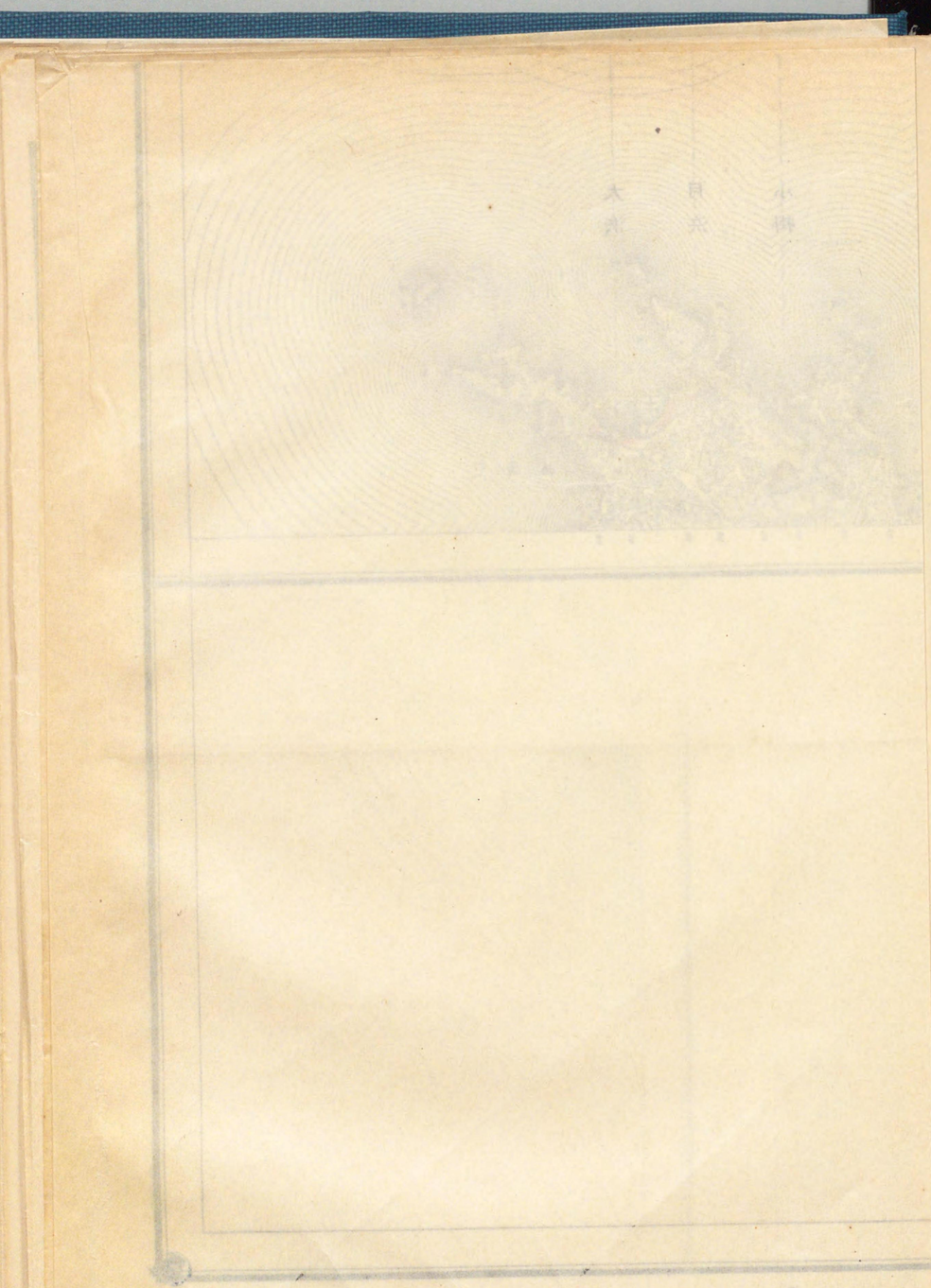
五万分一地形圖石巻十一號（共九面）

網地嶋

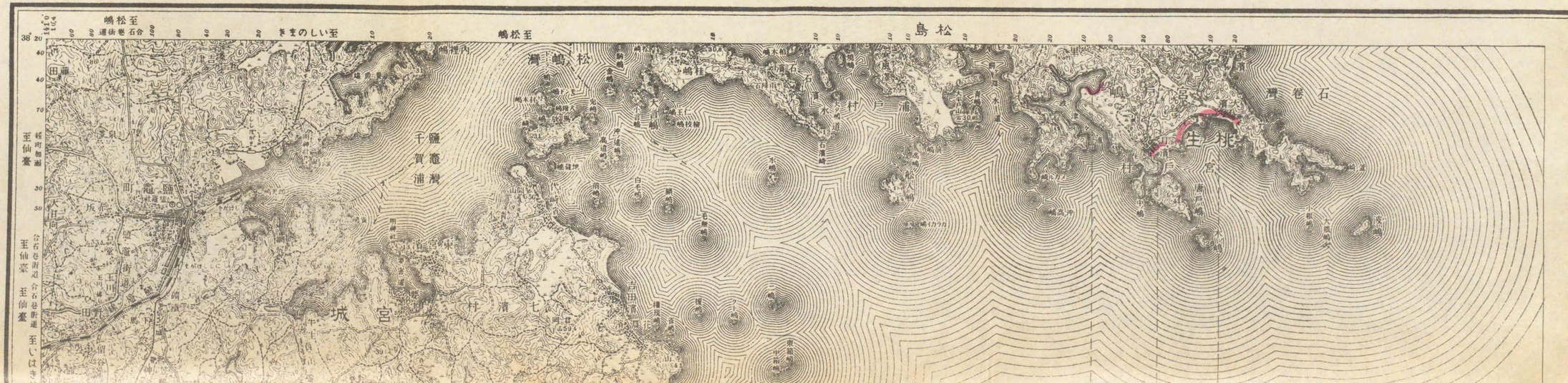
五万分一地形圖石巻十一號（共九面）

分一地形圖石卷十一號(共九面)

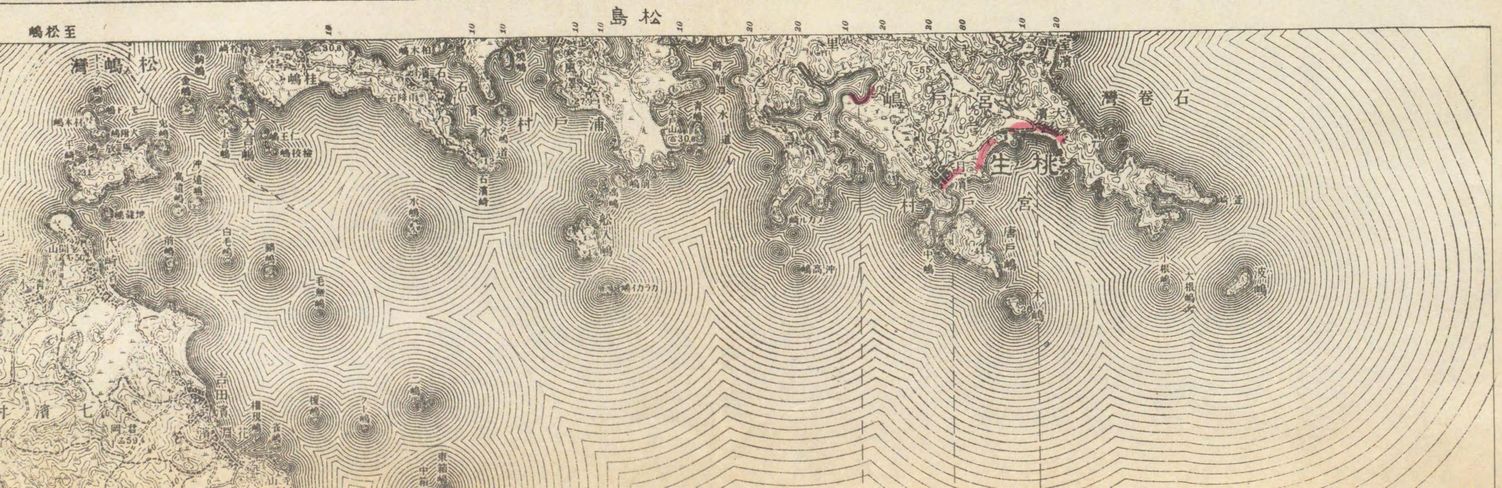
地形圖石卷十一號（共九面）



鹽竈



鹽竈



五万分一之尺

米 1000 500 0 1000 2000 3000 4000

町 10 5 0 10 20 30 1 里

大浜

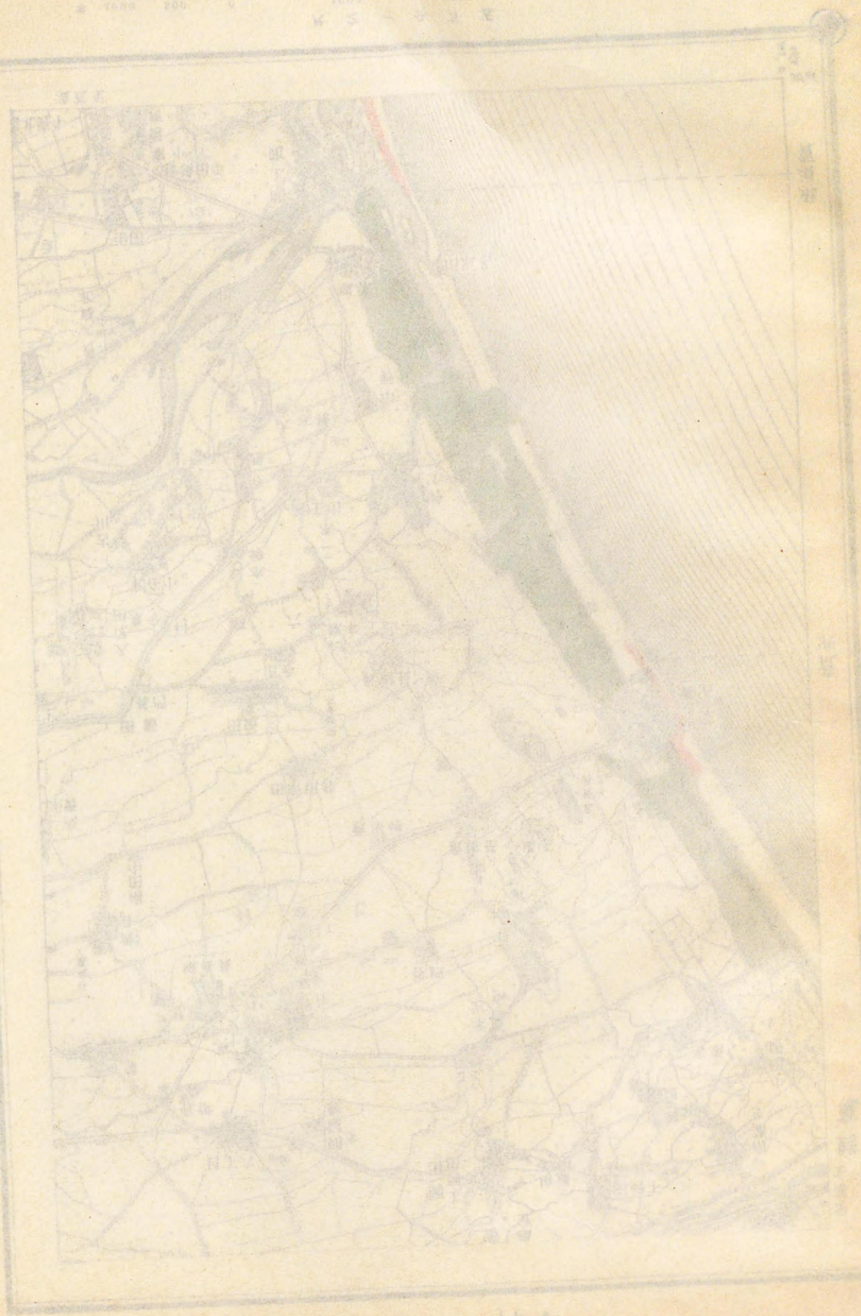
月浜

小掛

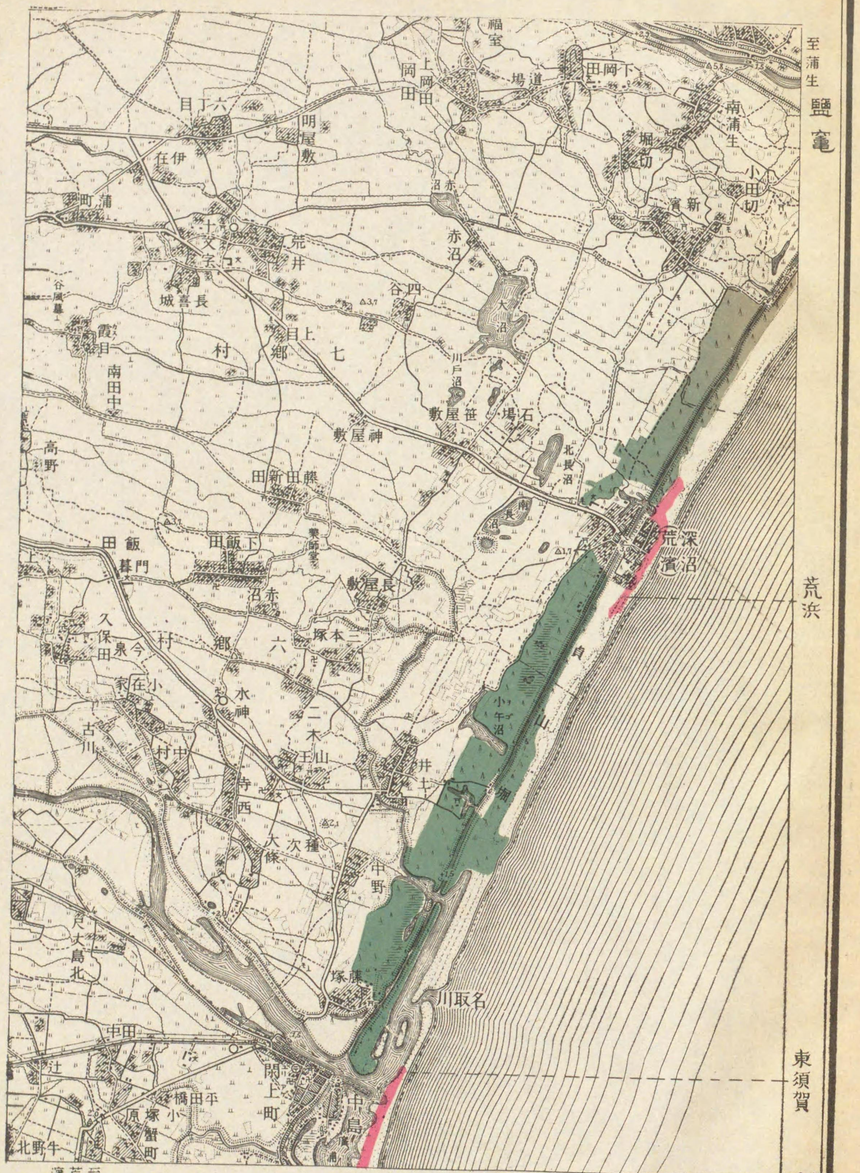
五万分之一尺

1000 2000 3000 4000

10 20 30 1里



臺仙



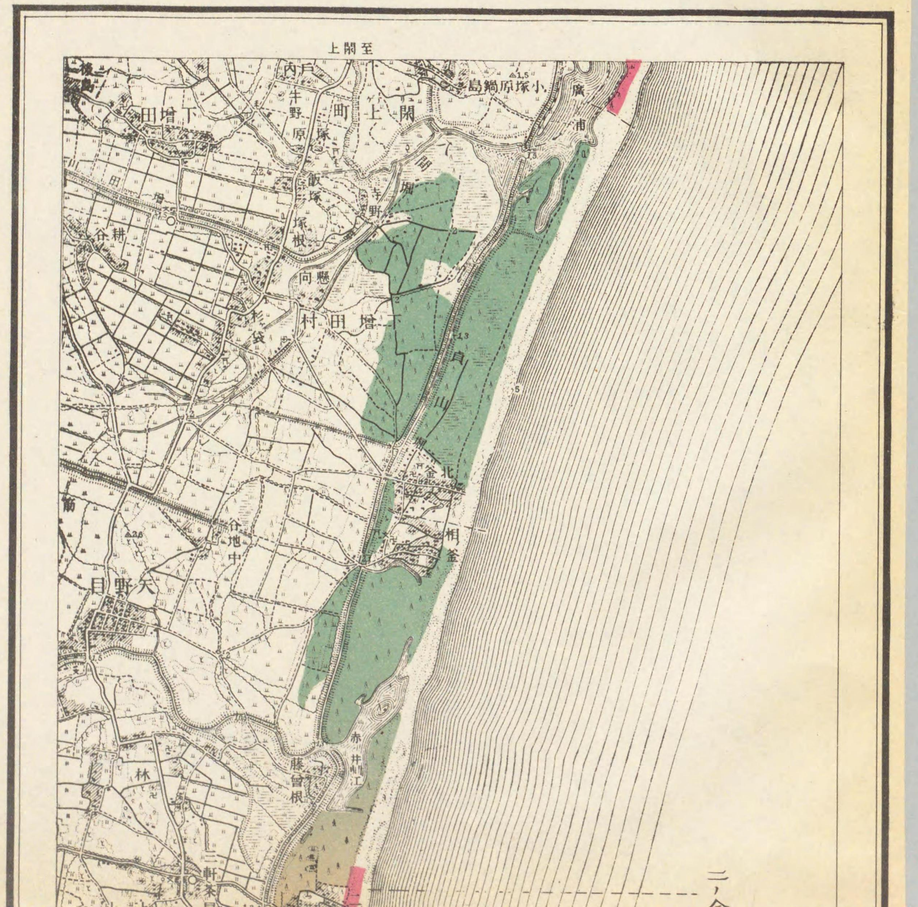
尺之一分万五

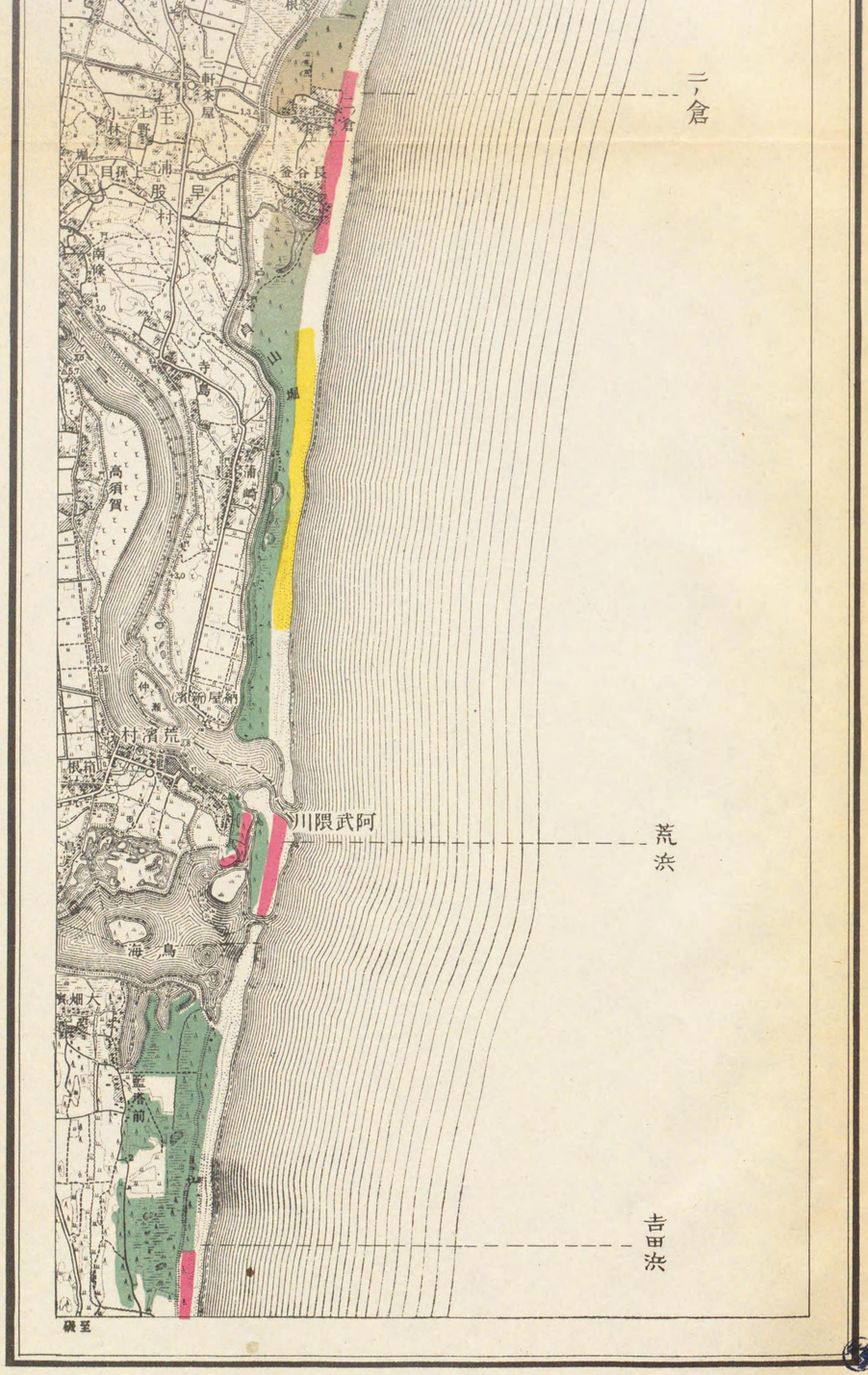
米 1000 500 0 1000 2000 3000 6000

町 10 5 0 10 20 30 1里

壹仙

沼岩

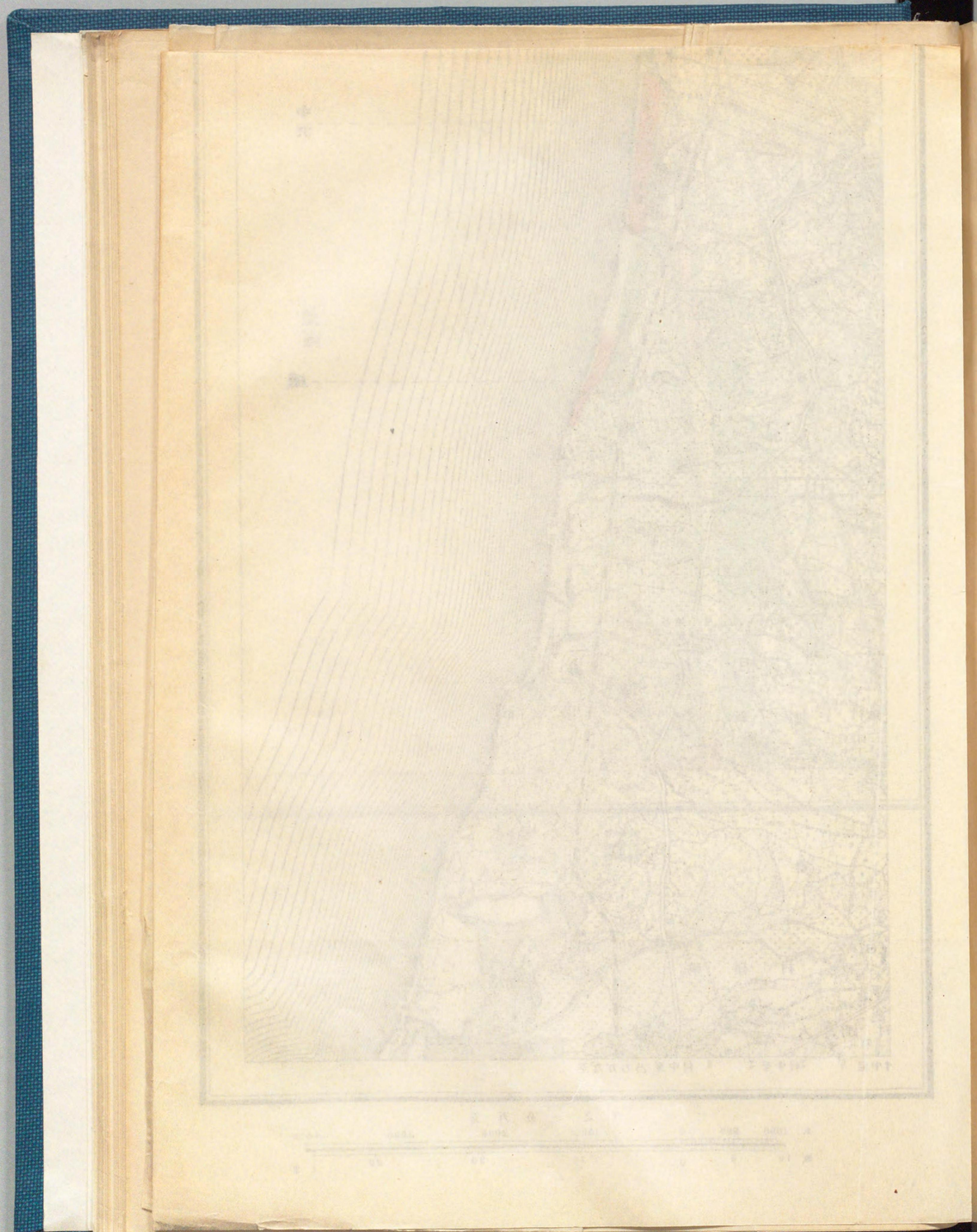




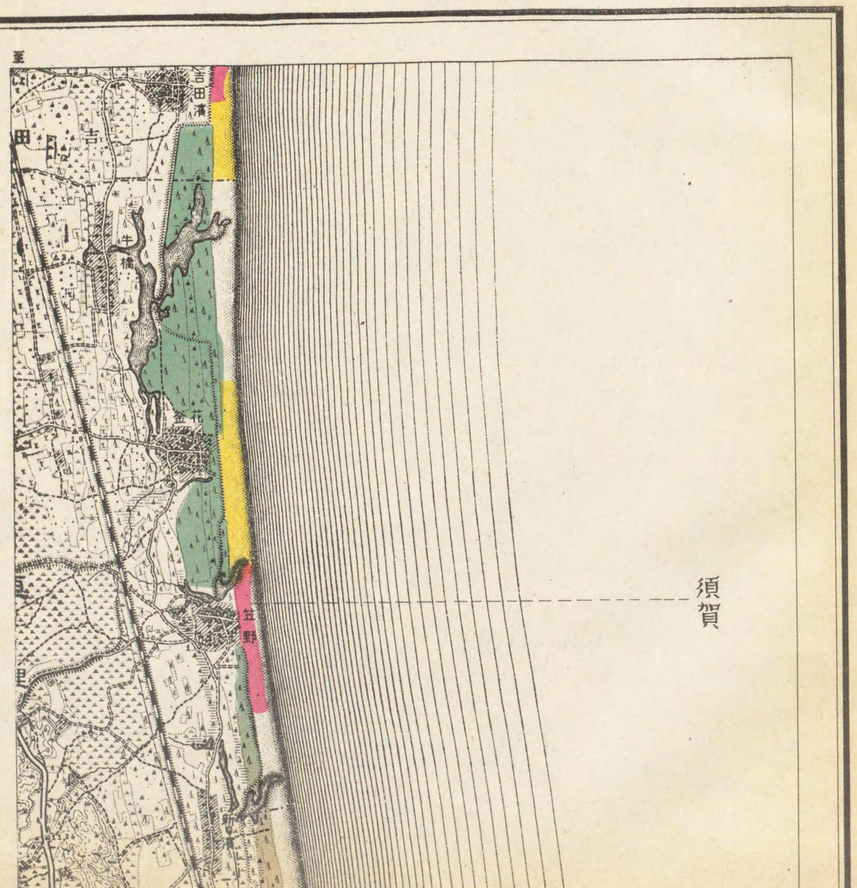
尺之一分万五

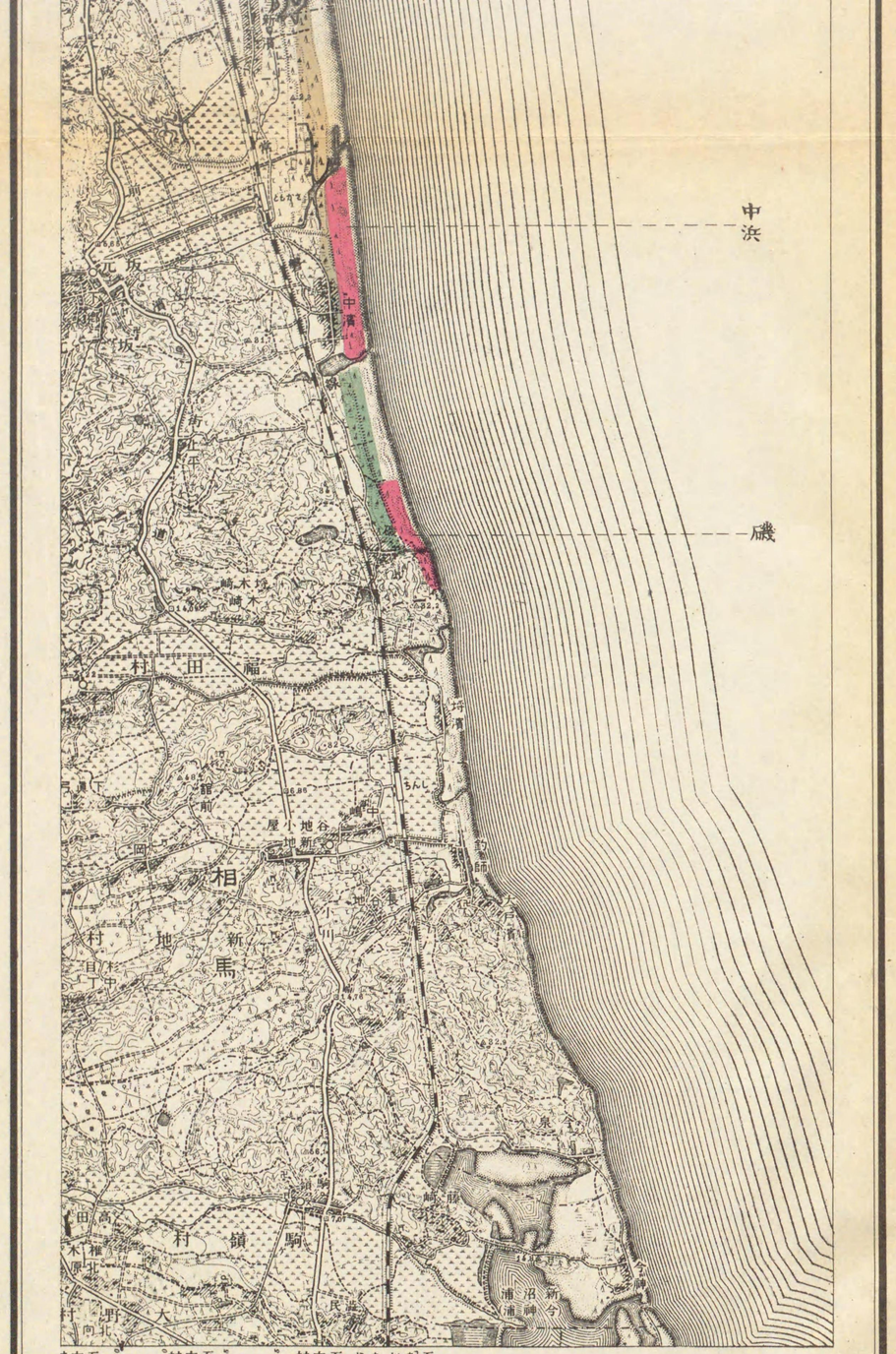
米 1000 500 0 1000 2000 3000 4000

町 10 5 0 10 20 30 1 里



田角





尺之一分万五

米 1000 500 0 1000 2000 3000 4000

町 10 5 0 10 20 30 1里

防潮林造成ニ就テ

林學博士　本多靜六

防潮林ノ津浪ニ對スル効用ト之ヲ設定スベキ位置等ニ就テハ、全然、今村博士ノ意見ト一致スルカラ之ガ敍述ヲ省畧スルコトニシ、今回ノ調査ヨリ得タ資料ヨリ其ノ定ツタ位置ニ造ルベキ防潮林造林上ノ技術ニ就キ、數種ノ案ヲ述ベ實際ニ當ル人ノ參考ニ供シ度イ。

第一　防潮林造成ノ餘地充分ナル場合

此ノ場合ニハ理想的ノ防潮林ヲ造ルコトガ出來ルガ、將來完全ナル森林ノ造成セラル、コトニ依テ、一度高地ニ逃レタ人々モ再ビ、元ノ低地ニ降リテ安全ニ生活スルコトノ出來ル樣ニスル爲ニ防潮林ヲ造ル場合ト、反對ニ直チニ津浪ニ對シテ効果ヲ奏スル森林ヲ造ル必要ナル場合トガアリ、又何レノ場合ニ於テモ、土壤ノ性質、防潮林ノ目的等ニ依テ造林上注意スベキ事項ガアル。

甲　差當リ防潮林ヲ以テ保護スベキ必要ハ無イガ

將來ノ爲ニ其ノ造成ヲ必要トスル場合

此ノ場合ニハ前方不安定ノ箇所ヲ捨テ、草ノ生ヘタ所ヨリ後方ヲ選ビ普通ノ砂防造林ノ原則ニ依テくろまつノ造林ヲスル。若シ海岸ノ近クヨリ造林スル場合ハ護岸用トシテ簡單ニ丸石杯ニテ疊ミ、又ハ簡單ナル護岸工

事ヲ施ス。干場ハ林ノ後方又ハ前方ニ設置シ、更ニ防潮林、其ノ後方ニ人家ヲ作ル。而シテ海岸ヨリ林内ヲ通ズル道路ハS字形ニ設クルヲ可トスル。（第一圖及第二圖參照）

百間以上餘地アル海岸ニハ十分ニ廣ク造ルベキデアル。此等ノ森林ハ津浪防禦ノ外ニ防風ノ作用ヲ爲シ風致ヲ添ヘル等ノ効果ガアル。斯樣ナ造成方法ヲ行フ場合ハ前方二〇―四〇間ヨリ後方ニハけやき、むね、ぼぷら、あかちや、えのき、くぬぎ、こなら、其他ノ雜木ヲ混植スル。尙下木トシテハまさき、つばき、いぼた、のばら、はまなす等ヲ仕立ツル。但シまさき、いぼた等ハ挿木苗ヲ作ルヲ最モ安全トスル。卽チいぼたハ芽ノ出ル前ニ三―五寸位ニ切リ小指大ノモノヲ苗圃ニ二―三寸置キニベタ挿ニスル。まさきハ六月始メ（又ハ五月末）ニ三―四寸ニ切リ葉ヲ二ツ位附着セルモノヲ床挿ニスル。床ニハ簾ヲ掛ケテ夏時ノ乾燥ヲ防ギ翌年ニ至レバ之ヲ山出シ苗トシテ旣ニ植栽シタ松ノ間ヘ植エル。又松ト同時ニ植栽スルモ可デアル。

乙　速急ニ効果著シキ防潮林ヲ造ル場合

此ノ場合ハ當然堤防ト併用スベキデアツテ堤防ノ前後兩側ニ造林スルノガ普通デアルガ、堤防ヲ造築スルコトハ費用ガ多クカヽルカラ森林ノミヲ以テ目的ヲ達スル樣ナ方法ヲ立案スル必要ガアル。其ノ爲ニハ森林ノ幅員ハ最小限三〇―五〇間ナルヲ必要トスル。其ノ造成方法ヲ述ブレバ、先ヅ波打際ニハ石張ノ小堤ヲ築イテ土砂ノ崩レルノヲ防ギ、夫ヨリ一〇―二〇間幅ノ間ハ普通ノ砂防造林ト同ジク小苗木ヲ植栽スル。はまなす、雜草等ガ野生シテ飛砂ノ處ナキトキハ簀立ヲ作ル必要ハナイ。夫ヨリ一〇―二〇間ノ間ハ高サ一―二間ノ松ヲ數列、五間位ノモノヲ三―四列植エ、次ニ其ノ後方ニ高サ一―二間ノモノヲ數列植エ、更ニ又小ナルモノヲ植エル。而テ最後列ニハ高サ二―三尺、幅三―四尺ノ堤防ヲ築イテ其ノ上ニ二列位ニまさきヲ植エル。已ニ存スルはまなす等ノ下木ハ可成保存スルヲ要スル。（第三圖參照）

丙　砂ニ土ノ混ズルコト割合ニ多クシテ土地ノ肥沃ナル場合

此ノ場合ニハくろまつノ防風林ヲ二〇―三〇間位トシ、其ノ後ニけやき、なら、かしわ、ぼぷら、あかちあ、はりぎり等ノ濶葉樹林ヲ仕立テ、而テ松ガ高クナレバ松ノ下ノミナラズ、けやき、なら、かしわ等ノ下木ヲ植栽スルヲ可トスル。下木植栽ニ用フル樹種ハ、まさき、いぼた等ガ宜シイ。（第四圖參照）

丁　緩衝地帶

緩衝地帶ニハ桑ヲ植エテ桑畑トスルガ最モ宜シイ。之ヲ崩芽セシムル爲皆伐方法ハ採ラナイデ幹ヲ切ラズ高木仕立トシテ數間ノ高サトスル。又桑畑ノ代リニ桐畑トスルモ一法デアル。何レニシテモ植栽區域ハ水ノ進ム方向ニ沿フテ百間位ノ間トシ二―三坪ニ一本位ノ割合ニ植エ、更ニ緩衝林ノ後方ニ田畑ノ在ル場合ハ下木トシテまさき等ヲ生籬狀ニ植栽スルヲ可トスル。又後方ニ人家在ル場合ハ植栽區域ノ最後列ニ小ナル堤防ヲ造リ其ノ上ニまさきヲ生籬狀ニ植栽スル。但シ大低ノ場合、此ノ堤防ヲ用ヒナクテモ宜シイガ住民ガ强イテ希望スルナラバ、ぽぷら、けやき又ハかき等ヲ植エルモ差支ハナイ。（第五圖參照）

第二　植樹地ハ極メテ狹ク住宅ガ高所ニ移轉シタ場合

斯ル場合ニハ住宅ノ前方ニ堤防ヲ築キ、其ノ前方ニ並木狀ニまつヲ植栽スル餘地ガアレバ二列位ニ堤防ノ前後ニ植栽スレバ宜シイ。（第六圖參照）

防潮林造成上注意スベキ事項

一　灌木、下草等ハ出來ルダケ其ノ地方ニ野生セルモノヲ自生セシムル樣工夫ヲナシ、下刈リハ一切禁止スル

コト。

二　一〇〇―三〇〇年生ノ老松ガ僅ニ點生スル所ハ速カニ補植スル必要ガアル。普通ノ場合ハ一面ニ小ナル苗木ヲ植エルガ、直チニ効果アラシメル爲ニハ後方ダケナリトモ樹高十尺位ノモノヲ植エルコト。又天然生ノ後繼樹ガ密生セル場合ニハ間伐ヲ行ヒ其ノ際雜木ガアレバ、けやき等ハ殘存セシメテ混淆林ヲ作ル樣注意スルコト。

三　既ニ公園的ニ利用セラレタル疎林箇所ノ補植ハ其ノ公園的利用ヲ妨ゲズ、且樹植ノ安全ヲ圖ル爲ニ高サ三―五尺ノ大苗ヲ三―五本宛塊狀ニ植エ、地域ノ廣キ場合ニ於テハ後方ニハ小苗ヲ植エルモ差支ナイ。

四　防潮林ト公園トヲ兼ネル目的デ造林スルトキハ風致木ヲ植エネバナラナイ。此ノ場合ニモ塊狀ニ數本宛植エルヲ可トスル。風致木トシテハしやりんばい、はまなす、つばき、ぐみ、まさき、のいばら、やまざくら、もみぢ類、つゝじ類、こぶし、ほゝのき等ヲ適當ニ選擇シテ植栽スルガ、全體トシテハ黑松林ヲ主體トナスベキハ勿論デアル。

附

防潮林ノ効用

防潮林ノ津浪ニ對スル効用ニ就テハ、今村博士ト略ボ同意見デアルカラ改メテ述ベナイガ、津浪以外ノモノニ對スル効果ニ就キ畧述スレバ大體左ノ如シ。

一　津浪ヲ防グ。

二　不生產的ノ砂地ヲ生產地ニ變ジテ木材、下草等ヲ生產スル。

三　潮風ノ害ヲ減ジテ後方ニ在ル田畑ノ收穫ヲ增加セシメル。

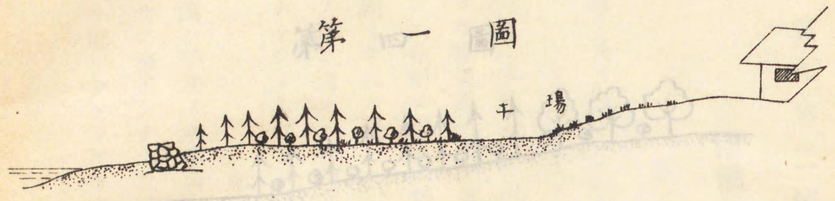
四　白砂青松ノ風景地ガ出來ルカラ、公園トシテ又海水浴場トシテ利用セラレ土地ノ繁榮ヲ來タス。

五　魚付ノ効果ガアル。

六　精神的安住ヲ增ス、卽チ沿岸ノ住民ハ常ニ津浪ノ襲來ヲ虞レテ居ルカラ、防潮林ノ造成ニ由テ避難ノ餘裕ノアルコトニ安住ノ度ヲ增ス。

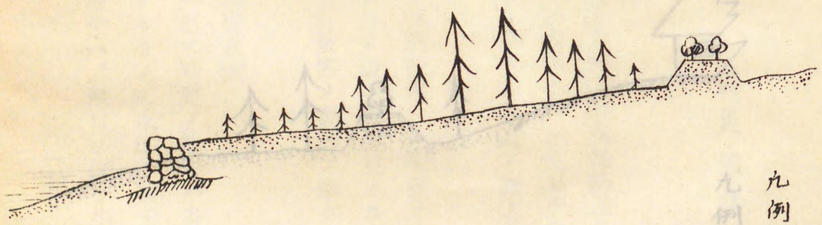
七　其ノ地方ノ風致風景ヲ增シ、惹イテ愛鄉心ノ基トナル。而シテ愛鄉心ハ之ヲ大ニシテハ愛國心トナル。

第一圖

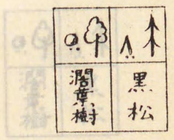


第二圖

第三圖

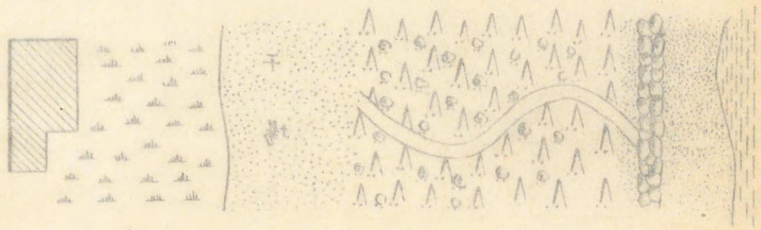


凡例

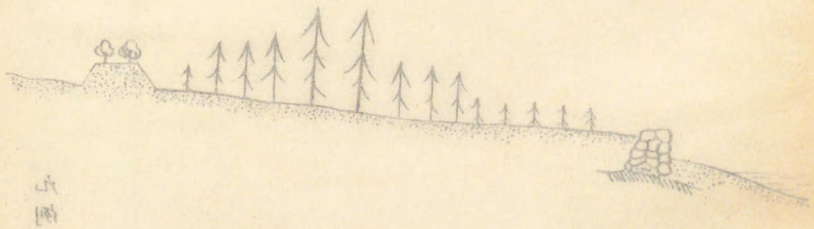


第一圖

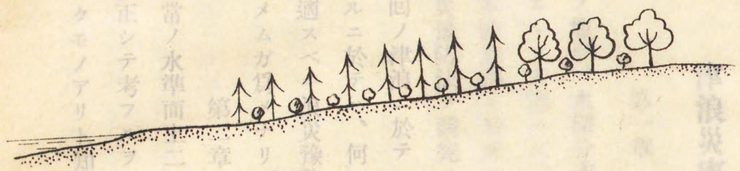
第二圖



第三圖



第四圖



第五圖

第六圖

凡例

津浪災害豫防ニ關スル注意書

震災豫防評議會

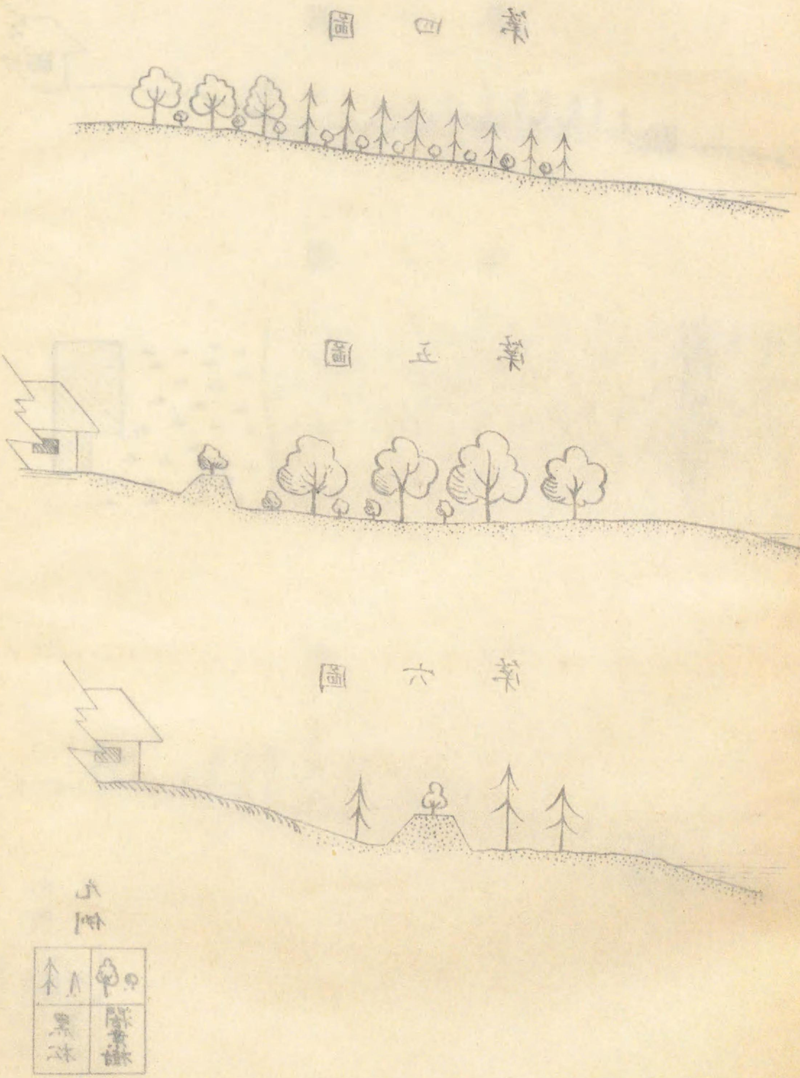
第一章　緒　說

港灣ハ其ノ地形、水深分布及ビ環境等ニ於テ千差萬別アルヲ以テ津浪罹災地ノ浪災豫防法ヲ講ズルニモ亦其ノ規ヲ一ニスルコト能ハズ、但シ三陸太平洋沿岸ニ見ルガ如キ港灣ハ其ノ大同小異ニ從ヒテ之ヲ若干個ニ分類シ得ベシ。本注意書ニ於テハ其ノ各部類ニツキ標式的ノモノヲ選擇シ之ニ對スル津浪ノ加害狀況ヲ考ヘ、之ニ適スベキ浪災豫防法ヲ講究スルコトヽセリ。

惟フニ今回ノ津浪ニ於テハ罹災町村部落二百ヲ以テ數フベシ、其ノ地理的狀況一々相異ナルベキモ小異ヲ捨テテ顧ミザルニ於テハ、何レノ一ヲ取ルモ其ノ前記標式的ノモノヽ何レカニ近キヲ發見スルニ至ルベク、從ツテ其ノ地ニ適スベキ浪災豫防法モ亦之ヲ類推スルニ難カラザルベシ。末段數個ノ實例ヲ擧グ、是レ其ノ類推ヲ容易ナラシメムガ爲メナリ。

第二章　海岸線ノ形狀及ビ海底ノ深淺ト津浪ノ加害狀況

津浪ハ平常ノ水準面上二三十米ノ高サニ達スルコトアルヲ以テ、次ニ記ス港灣ノ地形ハ各々ノ場合ニ相當スル高サヲ修正シテ考フルヲ要ス、例ヘバ平常ノ水準ニテハV字形ナラザルモノモ水準ヲ若干高メルトキハ其ノ形式ニ近ヅクモノアリト知ルベシ。三陸沿岸ニ普通見ルガ如キ港灣ニ於テハ、灣口ノ深サ甲乙類ニ於テハ概シ



テ三四十米乃至七八十米ナリトス。

甲類　直接ニ外洋ニ向ヘル灣

第一　灣形V字ヲナセル場合　津浪ハ灣奥ニ於テ十米乃至三十米ノ高サニ達シ、汀線ニ於テハ一層勢ヲ增シテ浪ヲ更ニ高所ニ打上グルヲ通常トス。

綾里灣、吉濱灣、姉吉、集、十五濱村荒等此部類ニ屬ス。

第二　灣形U字ヲナセル場合　津浪ハ前者ニ比較シテ稍々輕キモ高サ十五米ニ達スルコトアリ。

田老、久慈、小本、大谷等此ノ部類ニ屬ス、綾里湊ハ其ノ變形ト見ルヲ得ベシ。

第三　海岸線ニ凸凹少キ場合　津浪ハ其ノ高サ前記第二ニ近クシテ稍ミ低ク十二米ニ達スルコトアリ。

吉濱村千歳、赤崎村長崎、十五濱村大須等此部類ニ屬ス。

乙類　大灣ノ內ニ在ル港灣

第四　港灣V字形ヲナシテ大灣ニ開ク場合　津浪ハ第一ノ形式ヲ取ルモ波高稍々低ク十五米ニ達スルコトアリ、船越、山田ノ兩灣ニ連ナレル船越、兩石港、十五濱村相川等此ノ部類ニ屬ス。

第五　港灣U字形ヲナシテ大灣ニ開ク場合　津浪ハ第四ニ比較シテ一層低ク波高七、八米ニ達スルコトアリ。

廣田灣ニ開ケル泊、釜石灣ニ連ナレル釜石港、大槌灣ニ連ナレル大槌港、追波灣ニ開ケル船越灣等此ノ部類ニ屬ス。

第六　海岸線凸凹少キ場合　津浪ハ第五ニ比較シテ一層低ク四、五米ニ達スルコトアリ、又破浪スルコトナク單ニ水ノ增減ヲ繰返スニ過ギザル場合多シ。

山田灣內ニ於ケル山田港、大船渡灣ニ於ケル大船渡港等此ノ部類ニ屬ス。

丙類

第七　灣細長ク且ツ比較的ニ淺キ場合　津浪ハ概シテ低ク波高漸ク二、三米ニ達ス。

氣仙沼灣此ノ部類ニ屬シ、女川灣之ニ近シ。

丁類

第八　九十九里濱型砂濱　海岸直線ニ近ク海底ノ傾斜比較的ニ緩ニシテ、津浪ハ其ノ高サ四、五米ニ達スルコトアリ。

青森縣東海岸、宮城縣亘理郡沿岸等此部類ニ屬ス。

港灣ハ其ノ形狀深淺ニ從ヒ、以上ノ如ク數種ニ分類シ、各々ノ場合ニ相當スル波高限度ノ概數ヲ記載セルモ、灣側及ビ灣底ノ凸凹、屈曲等ノ津浪ニ與フル影響モ亦決シテ輕視スベキニアラズ。屈曲、凸凹甚シキトキハ浪勢之ニ由ツテ減殺セラルヽニ至ルベク、從ツテ同型ニ屬スル港灣ニ於テモ其ノ環境ノ如何ニヨリテ波高限度ニ多少ノ差違アリト知ルベシ。

第三章　浪災豫防法

高地ヘノ移轉　浪災豫防法トシテ最モ推奨スベキハ高地ヘノ移轉ナリトス、尤モ漁業或ハ海運業等ノ爲メニ納屋、事務所等ヲ海濱ヨリ遠ザケ難キ場合アランモ、然レドモ住宅、學校、役場等ハ必ズ高地ヘ設クベキモノトス。三陸沿岸ノ町村部落ハ概シテ山岳丘陵ヲ以テ圍繞セラルヽヲ以テ多少ノ工事ヲ施スニ於テハ適當ナル住宅地ヲ得ルニ甚ダシキ困難ヲ感ゼズ、但シ漁業者ニシテ往々高地住居ノ不便ヲ唱フルモノアレドモ、業務上

ノ施設ヲ共同ニシ且適當ナル道路ヲ敷設スルニ於テハ其ノ不便ヲ除クヲ得ベシ、實ニ船越村山ノ内ノ如キハ古來此ノ方法ヲ實行シ、千數百年來未ダ曾テ津浪ノ害ヲ被リタルコト之レナシト稱セリ。

第一ノ如キ港灣ニ於テハ固ヨリ、第二、第四ノ如キ場合ニ於テモ亦津浪ヲ正面ヨリ防禦スルハ實際上殆ンド不可能ニ屬ス。斯ノ如キ場所ニ於ケル浪災豫防ハ津浪進路ノ正面ヲ避ケ、其ノ側面ノ高地ニ適當ナル移轉場所ヲ求ムルヲ唯一ノ策トスベシ。船越村山ノ内、吉濱村本郷等適例トスベシ。

後章、綾里村、兩石、田老、釜石等ニ關スル案ヲ揭グ。

安全ナル高地ハ鐵道、大道路ノ新設或ハ改修ニ當リテモ利用スベク特ニ鐵道驛ニ就テ然リトス。

其ノ他浪災豫防法トシテ推奬スベキ諸方法ヲ例擧スルコト次ノ如シ。

防浪堤　防浪堤トハ津浪除ケノ堤防ノ謂ヒニシテ、海ニ設クルモノト陸ニ設クルモノトノ別アリ、普通ノ防波堤ハ風波ヲ凌グニ足ルモ、大津浪ニ對シテハ其ノ効果ヲ期シ難シ、之ヲ津浪ニ對シテ有効ナラシメンニハ其ノ高サニ於テモ、將又其ノ幅ニ於テモ、更ニ幾倍ノ大サニ增サザルベカラズ、費用莫大ナル爲メ實行困難ナラン。

後章、釜石、田老等ニ關スル案ヲ揭グ。

防潮林　防潮林ハ津浪ノ勢力ヲ減殺スル効アリ、海岸ニ廣濶ナル平地アルトキハ海濱一帶ニ之ヲ設クルヲ可トス。高田町沿岸ニ於ケル松林ノ如キハ此ノ好例タリ。

後章、田老、釜石等ニ關スル案ヲ揭グ。

護岸　津浪ノ餘リ高カラザル場所ニ於テハ、津浪ヲ阻止スルニ足ルベキ護岸ヲ設クルニ難カラザル場合ア

リ、山田、長部等此ノ好例ナリ。

後章、釜石、泊等ニ關スル案ヲ揭グ。

防浪地區　繁華ナル街區ガ海岸形式第四或ハ第五ノ如キ津浪ノ餘リ高カラザル海濱ニアリテ、而モ多少津浪ノ侵入ヲ覺悟セザルベカラザル場合ニ於テハ防浪地區ヲ設置シ、區内ニ耐浪建築ヲ併立セシムルヲ可トス。基礎深ク、且ツ堅牢ナル鐵筋コンクリート造ハ最良ノ耐浪建築ナルベク、之ヲ第一線ニ配スベシ、海岸ニ直角ナル壁ヲ多少強固ニ築造セバ一層好果ヲ收メ得ベシ。又家屋ガ木造ナル場合ニ於テモ、基礎ヲ深ク堅固ニ築キ土臺ヲ基礎ニ緊結セバ相當ノ効果アリ、防浪地區ノ背面ニ配列セシムルニ足ルベシ。（本會編纂「家屋新築及ビ修理ニ關スル耐震構造上ノ注意書」參照）

後章、泊、釜石等ニ關スル案ヲ揭グ。

緩衝地區　津浪ノ侵入ヲ阻止セントセバ必然ノ結果トシテ局部ニ於ケル增水ト隣接地區ヘノ反射或ハ氾濫ヲ招來スルニ至ルベシ、川ノ流路、谿谷或ハ其ノ他ノ低地ヲ犧牲ニ供シテ之ヲ緩衝地區トナシ、以テ津浪ノ自由侵入ニ放任スルニ於テハ隣接地區ノ浪害ヲ輕減スルニ足ルベク、若シ、又投錨ノ船舶ヲ此ノ緩衝地區ヘ流入スル津浪ニ委ネルニ於テハ其ノ被害ヲ多少輕減シ得ベシ。緩衝地區ニハ住宅、學校、役場等ヲ建設セザルモノトス。鐵道、大道路モ亦之ニ乘入レシメザルヲ可トス。

後章、釜石、田老、兩石、綾里湊、雄勝等ニ關スル案ヲ揭グ。

避難道路　安全ナル高地ヘノ避難道路ハ何レノ町村部落ニモ必要ナルベシ、釜石ノ如キ都會地ニアリテハ此ノ種ノ道路ヲシテ將來ノ住宅地タルベキ高地ヘ通ズル自動車道路ヲモ兼ネシムルヲ得策トスベシ。

津浪警戒　津浪豫知ノ困難ナルハ地震豫知ノ困難ナルニ等シ、然レドモ津浪ノ波及ハ緩漫ニシテ其ノ發生ヨリ海岸ニ到着スルマデニ、三陸東沿岸ニ於テハ通例少クモ二十分間ノ餘裕アルヲ以テ、器械或ハ體驗ニヨリテ其ノ副現象ヲ觀測シ、之ニ依テ津浪襲來ノ接近ヲ察知シ得ベシ。

津浪ノ副現象ハ左ノ如シ。

（一）津浪ノ原因タル海底變動ニヨリテ大規模ノ地震ヲ伴フ場合多シ、地震動ハ之ニ緩急種々ノ區別アルモ概シテ大キク搖レ且ツ長ク繼續ス。

（二）地震ト津浪トハ同時ニ發生スルモノナレドモ傳播速度ニ差アリ、其ノ發生ヨリ海岸ニ到達スルマデニ地震ハ三十秒程度ヲ要スルニ過ギザレドモ、津浪ハ二十分乃至四十分ヲ要スベシ。

（三）遠雷或ハ大砲ノ如キ音ヲ一回或ハ二回聞クコトアリ、地震後五、六分乃至十數分目ニ來ルヲ通例トス。

（四）津浪ハ三陸沿岸ニ於テハ引潮ヲ以テ始マルヲ通常トスレドモ然ラザル場合アリ、爾後海水ハ一進一退ヲ繰返スコト多次ナルベク、多クハ第一波ガ最大ナレドモ第二波或ハ第三波ガ最大ナルコトモアリ、潮ノ進退ハ其ノ速カナルトキハ每秒十米ニ達スルコトアリ。

津浪ハ概シテ以上ノ如キ順序ニヨリテ起ルヲ以テ單ニ體驗ノミニ依リテモ警戒ノ手段アリ。若シ之ニ加フルニ地震計測、各部落ヲ連ヌル電話網、團體組織等ヲ以テセバ一層有効ナル警戒ヲナスヲ得ベシ。

津浪避難　地震ノ性質其ノ他ニヨリテ津浪ノ虞之レアリト認ムルトキハ、老幼虛弱ノモノハ先ヅ安全ナル高地ニ避難スベク、其處ニ一時間程ノ辛抱ヲナスヲ要ス。又强者特ニ健脚ノモノハ海面警戒ノ任ニ當ルベク、津浪襲來ノ徵ヲ認メタル場合、警鐘、電話等ニ依ル警告ヲ發スルニ遺憾ナキヲ期スベシ。

避難ノ爲メ家屋ヲ退去スルニ當リテハ津浪到着マデノ餘裕ヲ目算シ、火ノ元用心、重要ナル物品携帶等機宜ニ適スル處置ヲナスヲ可トス。雨戸ヲ開放スルハ津浪破壞力ノ減殺ニ有効ナルコトアリ。

船舶ハ若シ岸ヲ二、三百米以上離レタル海上ニ在ルトキハ、更ニ沖ヘ出ヅルコト却テ安全ナリ。若シ然ラザルトキハ固ク之ヲ繫留スベク、若シ緩衝地區ヘ流入ノ見込ミアラバ、投錨ノマヽ之ヲ浪ノ進退ニ任セルコト避難上ノ一法タルベシ。

記念事業　浪災豫防上ノ一大强敵ハ時ノ經過ニ伴フ戒心ノ弛緩ナリトス、明治二十九年大津浪ノ直後、安全ナル高處ニ移轉シタル村落ハ其ノ數十指ヲ屈スルニ及ビシモ、時ノ經過ニ伴ヒ再ビ復舊シテ今回ノ災厄ヲ被ムルニ至リ、唯僅ニ吉濱村本鄕及ビ崎山村女遊戶ノ如キ一、二ノ部落ノミ能ク此ノ浪災豫防上ノ第一義ヲ遵守セリ。惟フニ今回ノ災厄ニ對スル記念事業多々アラン、就中浪災豫防ニ關スル常識養成ノ如キハ之ヲ罹災地ノ一般國民ニ課シテ極メテ有意義ナルモノタルベク、特ニ之ヲ災害記念日ニ施行スルニ於テ印象最モ深カルベシ。

記念碑ヲ建設スルモ亦前記ノ趣旨ニ適スルモノタリ、是レ不幸ナル罹災者ニ對スル供養塔タルノミナラズ、將來ノ津浪ニ對シ安全ナル高地ヘノ案內者トナリ、兼ネテ浪災豫防上ノ注意ヲ喚起スベキ資料トモナリ得ベキヲ以テナリ。

第四章　浪災豫防法應用ノ例

（一）田老村　港灣ハ外洋ニ面シテU字形ヲナシ、津浪ノ高サ今回ハ六米ナリシモ、明治二十九年ノ場合ニ於テハ十五米ニ及ベリ。

住宅地ヲ北方斜面十二米以上ノ高地ニ移ス、此ノ爲メニハ多少ノ土工ヲ要スベシ。若シ次ニ記スガ如キ防浪堤ヲ築キ、且ツ緩衝地區ヲ設クルヲ得バ住宅地ヲ多少（例ヘバ五米）低下セシムルモ差支ナカラン。

田老川及ビ其ノ北方ヲ流ル、小川ノ下流ヲシテ、東方ヘ向フ短路ヲ取ツテ直チニ田老灣ニ注ガシメ、別ニ防浪堤ヲ築キ其ノ南方地區及ビ上記二川ヲ以テ緩衝地區トス。

防浪堤ヲ築キ難キ場合ニ於テハ防潮林ヲ設クベシ、兩者ヲ併用スルヲ得バ更ニ可ナリ。

（二）**兩石**　兩石港ハV字形ヲナシテ兩石灣ニ開ケリ、津浪ノ高サ今回十一米ナリシモ明治二十九年ノ場合ニ於テハ多少高カリキ。

浪災豫防法考案次ノ如シ。

住宅地ヲ十二米以上ノ高地ヘ移轉セシム、其ノ第一候補地ヲ舊部落地ノ西南方高地トシ、第二候補地ヲ北方高地トス。兩者ヲ併用スルモ可ナリ、共ニ多少ノ土工ヲナスヲ要ス。

（三）**釜石**　釜石港ハU字形ヲナシテ釜石灣ニ開ケリ、津浪ノ高サ今回ハ四米ナリシガ明治二十九年ノ場合ニ於テハ八米ニ達セリ。

浪災豫防法考案次ノ如シ。

北方山腹ヲ開拓シテ住宅地トシ、自動車ヲ通ズベキ避難道路ヲ設ク。

須賀ノ一地區ハ住宅ノ建設ヲ止メテ臨海ノ遊園地トシ、兼ネテ大渡川ト共ニ緩衝地區タラシム。

鐵道線路ヲ利用シテ陸上ノ防浪堤トナシ、防潮林ヲ設ケテ其ノ外廓タラシム。又出來得ベクンバ海上ニモ防浪堤ヲ設ケテ前者ト共ニ略ボ一直線上ニアラシメ、其ノ北方ニ內港ヲ抱カシム。

護岸ヲ內港及ビ大渡川右岸松原等ニ設ケ、內港護岸ニ接スル一帶ノ街區ヲ防浪地區トス。

護岸ノ高サハ五米程度トスベク、若シ海陸ニ防浪堤ヲ設クルヲ得バ北方ノ護岸ハ多少（例ヘバ一米半）低下セシムルモ可ナラン。

（四）**綾里湊**　南方ニ開ケル細長キ港灣ニシテ、津浪ノ高サ今回ハ八・五米ナリシモ明治二十九年ノ場合ニ於テハ十一米ニ達セリ。

浪災豫防法考案次ノ如シ。

住宅地ヲ西側十二米以上ノ高地ニ移スベク、此ノ爲メニ多少ノ土工ヲ要ス。港灣ノ延長部タル舊部落地一帶ノ低地ヲ以テ緩衝地區トス。

（五）**泊**　泊港ハU字形ヲナシテ廣田灣ニ莅メリ、津浪ノ高サ今回ハ八・六米ニシテ明治二十九年ノ場合ハ十米ニ達セリ。

浪災豫防法考案次ノ如シ。

泊ハ其ノ住宅地概シテ六米以上ノ高地ニアルヲ以テ、若シ一歩後方ノ斜面ニ退却セバ津浪ノ迫及ヲ免カル、ニ難カラズ。但シ現在ニ於ケル漁業組合事務所等ノ位置ハ大津浪ノ場合浸水ヲ免レ難カルベク、此ノ一帶海面ニ向ヘル線ヲ防浪地區トシテ完全ナル耐浪建築ヲ竝立セシムルヲ要ス。

（六）**雄勝**　雄勝灣ハ細長ク且ツ屈曲シタル入海ニシテ雄勝港ハ其ノ末端ニアリ、港ニ於ケル浪ノ高サ明治二十九年ノ場合ハ三・四米ナリシガ、今回ハ稍々高ク四・七米ニ達セリ。

浪災豫防法考案次ノ如シ。

住宅地ヲ北方ノ丘陵地ヘ移スヲ可トス。本所ハ工業地ノコトナレバ漁業地ニ比較シテ移轉容易ナルベシ。

護岸ハ現在二・七米ノ高サヲ有セリ、更ニ二米築キ上グルヲ可トスベシ。

雄勝港ノ延長部タル川筋ノ低地ヲ以テ緩衝地區トス。

附錄

津浪災害ニ對スル應急並復舊施設概要

第一　兩陛下御下賜金各宮家御救恤ニ關スル事項

昭和八年三月三日ニ於ケル青森、岩手、宮城三縣東海岸震災ノ慘狀天聽ニ達スルヤ

天皇皇后兩陛下ニ於カセラレテハ畏クモ深ク御軫念遊バサレ、特ニ優渥ナル御沙汰ヲ賜ヒ、直ニ侍從ヲ御差遣アラセラレテ親シク罹災民艱苦ノ窮狀ヲ撫察シ給ヒタルノミナラズ、早クモ三月四日ニハ御內帑金ヲ下賜セラレタリ。

聖恩ノ鴻大無邊ナルニ恐懼感泣セザルナク、知事ハ告諭ヲ發シテ縣民ハ不撓不屈、相勵ミ相助ケ鋭意復興ニ力ヲ輸シ、速ニ將來ノ計ヲ樹テ、以テ海岳ノ聖恩ニ對ヘ奉ランコトヲ期スベシト命ジ、又其ノ頒賜ニ當リテハ拜受者ガ克ク聖旨ノ存スル所ヲ拜察シ、永ク聖恩ヲ奉體スル樣、最モ有効且適切ナル方法ヲ講ズベキ旨ヲ關係町村長ニ訓示シ、知事代理ノ傳達主任官ヲ罹災地ニ派遣シテ嚴肅ナル傳達式ヲ擧行シ、愼重ニ頒賜ス。

各宮家ニ於カセラレテハ罹災民ノ慘狀ニ痛ク御憂慮遊バサレ、御救恤金ヲ御下賜セラル。御趣旨ノ存スル所ヲ體シ、町村復舊更生ニ對シ適切ナル方法ヲ講ズル樣、愼重ニ配意スベキ旨ヲ知事ヨリ各町村長ニ通牒ノ上頒賜セリ。

一　本省應急對策

三月三日三陸地方津浪災害ノ悲報到ルヤ農林大臣ハ直ニ各關係官ヲ招集シ、同地方ニ於ケル被害狀況ヲ調査シ、之ガ對策ノ樹立ヲ命ジタリ。依テ各局ニ於テ夫々吏員ヲ被害地ニ急派シテ、罹災民ノ慰問並ニ各般ノ調査ヲナシタリ。尚本省ノ取締船新知丸ヲ派シテ宮城、岩手兩縣下ノ沿岸ニ於ケル一般救護ニ從事セシメタリ。

各調査員ハ災害當時ニモ拘ラズ、萬難ヲ冒シテ被害ノ實狀ヲ調査シ、三月中旬迄ニ全部ノ調査ヲ了シタリ。其ノ結果罹災地方ニ於ケル産業ノ急遽復舊ヲ必要トスルモノ、及浪災ニ對スル恒久施設ノ樹立ヲ要スルモノ尠カラザルヲ認メタルヲ以テ各縣ノ調査ヲモ參考トシ、直ニ之ガ對策ノ樹立ニ着手シ、大臣以下關係官ハ數日間殆ド不眠不休ノ努力ヲ續ケ、三月十九日其ノ成案ヲ得タルヲ以テ之ニ對スル八年度追加豫算ヲ要求セリ。當時帝國議會ハ殆ド終期ニ迫リシニモ拘ラズ議決シテ之ガ成立ヲ見ルニ至レリ。

其ノ內應急的復舊ヲ要スル産業施設ニ對シテハ助成金ヲ交付シ、或ハ低利資金ヲ融通シテ急速ナル復舊ヲ助成スルコト、セリ。

其ノ項目並ニ金額次ノ如シ。

項目	青森縣		岩手縣		宮城縣		計	
	助成金	低利資金	助成金	低利資金	助成金	低利資金	助成金	低利資金
	円	円	円	円	円	円	円	円
農業復舊助成			四九、一四五	四四七、〇〇〇	五三、一七五	七四、〇〇〇	五四、六三〇	五二一、〇〇〇
漁船復舊助成	一六二、九〇〇	七五、〇〇〇	一〇五、七〇〇	一二三、六〇〇	一九四、八〇〇	二一一、〇〇〇	一、三一四、四〇〇	一、五二二、〇〇〇
漁具復舊助成	一一、四五〇	一三、〇〇〇	六七、一六八〇	一、三九七、〇〇〇	八三、四〇〇	一四四、〇〇〇	七六六、五三〇	一、五九三、〇〇〇
水產共同施設助成	二七、六〇〇	二四、〇〇〇	二七、七二五	二一四、〇〇〇	一二九、八〇〇	八一、〇〇〇	四三四、二三五	三九、〇〇〇
畜產復舊助成			二三、五〇七	二三、〇〇〇	一、九八五	二、〇〇〇	二四、四九二	二五、〇〇〇
蠶業復舊助成			三九、七七五	三〇、〇〇〇	一七、四〇〇	一〇七、〇〇〇	五七、一七五	三七、〇〇〇
炭材購入資金		一〇、〇〇〇		一三四、〇〇〇				一四四、〇〇〇
(水產)共同製造所復舊事業資金		二一、〇〇〇		七五、〇〇〇		四五、〇〇〇		一四一、〇〇〇
(水產)共同養殖設備事業資金				一、〇〇〇		二〇、〇〇〇		二一、〇〇〇
(水產)個人製造所復舊資金				二四〇、〇〇〇		一六〇、〇〇〇		四〇〇、〇〇〇
船溜船揚場復舊資金				六、〇〇〇		一五、〇〇〇		二一、〇〇〇
築磯復舊資金				三六、〇〇〇		五、〇〇〇		四一、〇〇〇
產業組合建物復舊資金				七七、〇〇〇				七七、〇〇〇
計	一〇一、九五〇	一四二、〇〇〇	二、五五八、八四五	四、五六八、〇〇〇	四八〇、五六〇	八六四、〇〇〇	三、一四一、三五五	五、五七二、〇〇〇

備考　右ノ外船溜、船揚場及築磯復舊費ニ融通セル低利資金ニ對シテハ、之ガ利子ノ補給ヲ爲スコト、シ、岩手縣ニ對シ六七二圓、宮城縣ニ對シ二二〇圓ノ補給豫算ヲ計上セリ。

又山林局ニ於テハ罹災地ノ復舊ニ當リテハ多量ノ木材需要ヲ喚起スベキニ依リ、直ニ災害地方ヲ管轄區域ト

スル青森營林局ニ對シ、復舊材料ノ要望ニ對シテハ可及的速ニ適材ヲ供給スル樣準備方通牒ヲ發シ同局ニ於ケル供給計畫成立ノ報ニ接スルヤ、三月二十三日青森、岩手、宮城ノ各縣ニ對シ左ノ通牒ヲ發シテ復舊ノ便益ヲ圖レリ。

「三陸沿岸震嘯ニヨル罹災家屋並漁船、其ノ他復舊用材ノ供給ヲ國有林ニ要望スル向ニ對シテハ可及的速ニ適材ヲ供給シテ復興ニ助力スベキ旨、青森營林局長ニ通達致置候處其ノ後同局長ヨリノ報告ニ依レバ、同局管內國有林ヨリ供給支障ナシト認ムル材料ニ付テハ已ニ各營林署ニ於テ實査ヲ了シ、罹災民ヨリノ申請ヲ待チ、速ニ具體的協議ヲ進メ得ル樣、各般ノ調査ヲ完了セル趣ニ付、右事情ニ關シ、縣下各關係地方民ニ對シ可然御示達ノ上直接關係局署ト協議セシメラルヽ樣致度此段申述候也」

尙其ノ他ノ營林局ニ對シテモ船用材供給能力ノ調査ヲ命ジ、何時ニテモ之ガ要望ニ應ジ得ル如ク手配セリ。

二　青森營林局ノ應急措置

青森營林局ニ於テハ津浪災害地ノ復舊ニ當リテハ直ニ各種木材ノ需要ヲ伴フベキコト明ナルニ鑑ミ、應急措置トシテ、

災害直後罹災地管轄各營林署長ニ對シ、電報又ハ電話ヲ以テ應急小屋掛材其ノ他ノ供給方申込アリシ場合ハ迅速且簡便ニ供給シ得ル樣、豫メ準備調査ヲ爲シ置クベキコトヲ通達シ、罹災者ヲシテ一日モ早ク居住ノ安定ヲ得セシムベク、又船舶（漁舟）ノ復舊材料ノ要求ニ應スベク、三月八日管內官行斫伐製品ノ生產ニ關係アル各營林署ニ對シ、豫メ船具材ニ振向クベキ長材ノ生產ヲ命ジ、何時ニテモ供給申込ニ應ジ得ラル、樣計畫セリ。

又楢、杉、赤松、栗、欅、其ノ他ノ針葉樹、濶葉樹ニシテ建築營繕等ノ材料ニ供シ得ラル、モノハ立木、製品共當分ノ內、公賣處分及特別ノ事情ナク急ヲ要セザル特賣處分ハ一時之ヲ見合ハセテ、災害復舊材ノ供給ニ充ツル樣、全營林署ニ通達シ、夫々準備ヲ整ヘテ只管供給ノ迅速圓滑ヲ期セリ。而テ罹災直後ニ於テハ各町村ハ罹災民ノ救護ニ多忙ヲ極メ建築、造船用材等ノ所要額ノ見込立タザリシヲ以テ、局ニ於テ概數ヲ見込ミ次表ノ如キ需給計畫ニ依リ準備ヲ整ヘタリ。

而シテ罹災地ヨリノ申込ニ依リ逐次供給ニ努メ、八年十二月一日現在ニ於ケル供給成績次表ノ如シ。

（一）津浪被害船舶復舊所要材需給計畫並供給成績

縣	郡	所在營林署	被害船舶數	復舊所要見込材積（丸太）石	供給可能見込材積（丸太）石			差引過（不足）材積（丸太）石	供給成績
					國有林	地方公私有林	計		
青森	上北	野邊地							
同	三本木	二六八	九六〇	九六〇			九六〇	〇	船用材 立木 九太 九七六石 七二石
三戸	三戸	四七四	五、三三〇	三、八六五	九六〇	一、四六五	五、三三〇	〇	船用材 立木 九太 二、三六九石 九七六石
計		六〇二	六、二九〇	四、八三五		一、四六五	六、二九〇	〇	船用材 立木 九太 四四三石 二三八〇石
岩手	九戸（下閉伊）	久慈	一、五九四	九四三	二、九二三		六、五〇〇	九四三	〇	船用材 立木 九太 六、三七六石 一五二石

二戸	沼宮内		一、二三八	五、〇六一													
下閉伊	岩泉		一、八八九	六、九一五	四、〇〇〇	一、四五〇	三、〇〇〇	三、一〇六	(一、八五五)(四六三艘)	船用材	立木	七八八石					
同	宮古		一、八八九	六、九一五	四、〇〇〇	一、四五〇	三、〇〇〇	三、一〇六	(一、八五五)(四六三艘)	船用材	立木	一、四五〇石					
桟橋二三個所			五、四一一	四、〇〇〇	一、四一一		五、四一一										
上閉伊	遠野		九七三	九、八五〇			七〇〇	七〇〇	(九、一五〇)(三五二艘)								
氣仙	盛		一、六七五	一九、三〇四	五、〇〇〇	一五〇	四、〇〇〇	九、〇〇〇	(一〇、三〇四)(八九六艘)	船用材	丸太	六、三〇三石					
同	高田	七九九八 二五二個所	六二九	三、一四五	一、〇〇〇	八九五	一、〇四五	一、〇〇〇	(二、一〇〇)(四二〇艘)	船用材 宮城縣ノ分ヲ含ム	立木	一、七六〇石					
							(二六、八七五)(三、〇六六艘)	(二六、八七五)(三、〇六六艘)									
計		一〇三八 二五二個所	六九九	四、〇〇〇	一、四一一	七〇〇	四、〇〇〇	五、〇〇〇									
宮城			一、八四一	一八、〇〇〇	一二、五二三	一、〇五〇	一二、五二三	一八、〇〇〇									
本吉	高田	八二四	四、二一〇	四、二一〇													
牡鹿		八二四	四、二一〇	四、二一〇													
桃生	石巻	八九四	九、一〇〇二	八、〇九二	一、〇〇〇	一五〇	八四二	七、〇〇二	(九、一五〇)(三五二艘)								
計		一〇三八 二五二個所	一、七一八	九五、二一三	一八、四一五	一、〇五〇	一七、四一五	一八、〇〇〇									
合計			三五、七六二	九七、八八四	四五〇	三、〇〇〇	三五、四五〇	七六、七〇七	(一三三、六四六)								

注意

差引不足額ニシテ國有林ヨリ供給ヲ要スルトキハ秋田營林局ヨリ杉一〇、〇〇〇石轉換ヲ受ケ得ル見込。

（二）被害家屋復舊所要材需給計畫並供給成績

縣	郡	所在營林署	被害家屋數	復舊所要見込材積（丸太）石	供給可能見込材積（丸太）石 國有林	地方公私有林	計	差引過（不足）材積（丸太）石	供給成績
青森	上北	三本木	五八	一、一六〇			五八〇	(五八〇)	昭和八年十二月一日現在
	三戸	三戸	七四	二、一〇六			二、一〇六		
計			一三三	三、二六六			二、六八六	(五八〇)	
岩手	九戸	久慈	七六五	三七、一八〇	三三、〇〇〇		三三、〇〇〇	(四、一八〇)	建築用材 立木 七二九八石
	九戸（下閉伊）	岩泉	七二七	七二、七〇〇	六三、四〇〇		九四〇〇	(六三、三〇〇)	建築用材 立木 一〇六六石
	下閉伊	宮古	一、二七	八一、〇八四	二九、二二三		三七、五四〇	(四三、五四〇)	建築用材 立木 八九三石
	上閉伊	遠野	一、三四一	一三〇、七四〇	一八、六二七		四七、五二七	(七三、二二三)	建築用材 立木 四、二四七石 間伐木 一〇、七二七本
	氣仙	盛	一、九〇八	八三、四〇〇	二四、二四〇		三五、二九〇	(四八、一一〇)	建築用材 丸太 一、六七八石
	同	高田	二八四	二、四四〇	一一、〇五〇	七二〇	一五、八一〇	(五、六三〇)	建築用材 立木 一、七二四石 （宮城縣ノ分ヲ含ム）
計			六、〇四七	四、六五四	九九、五五八		一七八、五六七	(二四七、九七七)	
宮城	本吉	高田	五六二	四二、五〇〇	三、五一〇		三、五一〇	(六四七〇)	建築用材 立木 三〇一三石
桃生	牡鹿	石巻	八九四	九、一〇〇二	七三、〇〇二		九一、〇〇二		板 二、一〇〇坪

計						
合計						
		一、四五五	一三三、五九二	二一、五一〇	一〇五、六二三	一二七、一二三
		七六三四	五六三、四〇二	一〇〇、五一九	二〇七、八五六	三〇八、三七五
						(二五五、〇二七)
						(六四七〇)
					建築用材	立木 一八、二四一石
						間伐木 一〇七、七本
						板 二、一〇〇坪

注意

差引不足額ニシテ國有林ヨリ供給ヲ要スルトキハ高知營林局ヨリ或程度ノ供給ヲ受ケ得ル見込。

三　恒久對策

今回ノ三陸地方津浪ノ慘害ニ鑑ミ、將來同地方ニ於ケル同樣ノ災害ヲ防止スル恒久對策樹立ノ必要ヲ認メ、之ガ調査費二萬圓ヲ八年度追加豫算トシテ計上セリ、其ノ內譯左ノ如シ。

山林局	一〇、九一〇圓
水產局	六、九四〇圓
農務局	二、一五〇圓

而シテ山林局ニ於テハ津浪災害防止林（防潮林）ノ造成ニ關シ、水產局ニ於テハ防波堤、防浪堤、護岸ニ關シ、農務局ニ於テハ防潮堤、潮溜、潮扱、樋門水路ノ補強工事等ニ關スル施設ニ付、夫々適確ナル調査ヲ遂行シ、其ノ成果ニ基キ對策ヲ樹立スルコトトセリ。

第三　各縣ノ應急並復舊施設

一　青森縣

（一）　應急救護施設概況

（イ）　罹災救助基金法ニ基ク救助

本法ヲ運用シ先以テ炊出ノ給與ヲ行ヒ、引續キ被服、寢具、炊具ノ給與、小屋掛材料、就業費、埋葬費、學用品ノ給與等ヲ爲シタリ。

（ロ）　同法ニ基ク食料給與

罹災後ノ食料窮乏ヲ慮リ政府米百石ノ拂下ゲヲ受ケ罹災市町村ニ配分セリ。

（ハ）　救護班ノ派遣

罹災者中ノ負傷者、罹病者救護ノ爲メ、縣ハ醫師、看護婦、事務員、消毒係各一名ヨリナル救護班ヲ派遣シ、被害地全部ニ渉リ移動施療ヲ行ヒタリ。

（ニ）　義捐金品ノ募集

三月四日知事、縣會議長發起トナリ義捐金品ノ募集ヲ開始セリ。右募集ノ結果、義捐金總額六一、〇〇〇圓、義捐品二、五四一個ニ達シタリ。

（ホ）　救援金ノ配分

縣ニ於テハ御下賜金傳達ト同時ニ救援金三、〇〇〇圓ヲ配分セリ。

（ヘ）　派遣軍人家族慰問

青森縣稿軍義會ヨリ一戶最高三十圓最低五圓ヲ贈呈慰問セリ。

（ト）　救恤品配給

陸軍省、海軍省ノ特別ナル配慮ニ基ク救恤品（陸軍省　毛布、外套、襦袢、袴下各一、〇〇〇枚　海軍省　毛布、軍服、襦袢、ビスケット、罐詰、雨衣等）ハ陸軍省ヨリノ分ハ六日午前六時歩兵第五聯隊ニ於テ、海軍省ヨリノ分ハ七日午前七時鮫港ニ於テ、夫々受領配給セリ。

（二）住宅資金ノ融通　　資　金　　三六、三六〇圓

津浪ノ被害家屋中住宅ノ建築ハ急ヲ要スルヲ以テ、縣ニ於テハ直ニ之ガ助成計畫ヲ樹テ二ケ村六十世帶建築總額五〇、四五三圓ニ對シ低利資金三六、三六〇圓ヲ貸付シテ建築セシムルコトヽセリ。

（三）無動力漁船復舊　　事業費　　五五、八〇〇圓

罹災漁船ノ復舊ハ漁民ノ生業上急ヲ要スルヲ以テ、五五八隻ノ復舊計畫ノ下ニ事業費ノ二分ノ一ハ國庫補助金ニ依リ、他ノ二分ノ一ハ低利資金ヲ融通シテ建造セシムルコトヽセリ。

（四）動力付漁船復舊　　事業費　　七〇、〇〇〇圓

罹災動力付漁船ノ復舊亦急ヲ要スルヲ以テ、二八隻ノ復舊計畫ノ下ニ前項同樣ノ助成方法ニ依リ復舊セシムルコトヽセリ。

（五）漁船復舊事業資金融通　　資　金　　一二、〇〇〇圓

漁船ノ復舊ト共ニ之ガ事業資金ヲ必要トスルヲ以テ、之ヲ必要トスル者ニ對シ低利資金ヲ融通スルコトヽセリ。

（六）漁具、漁網復舊　　事業費　　二二、九〇〇圓

漁船ノ復舊ト共ニ漁網ノ整備ヲ必要トスルニ依リ、小漁具復舊四九五隻分經費九、九〇〇圓、旋網類復舊二統八、〇〇〇圓、刺網類復舊五隻分五、〇〇〇圓ノ復舊計畫ノ下ニ二分ノ一ヲ國庫補助金ニ、殘額ヲ低利資金ノ融通ニ依リ助成スルコトヽセリ。

（七）水產共同施設復舊　　事業費　　五五、二〇〇圓

從來個々ニ經營セル水產諸施設ヲ此際可及的ニ共同經營トシテ、經濟的ニ利用セシムル爲共同設備ヲ爲サシムルコトヽシ、共同販賣所四箇所經費一一、二〇〇圓。共同製造場一四箇所三五、〇〇〇圓、共同倉庫六箇所九、〇〇〇圓ノ建設計畫ヲ建テ經費ノ二分ノ一ハ國庫補助金ニ依リ、其他ノ二分ノ一ハ低利資金ヲ融通シテ助成スルコトヽセリ。

二　岩手縣

（一）震災警備警戒概況

地震ノ性質稀有ニ屬シ從テ地方ニ於ケル被害相當アルベキヲ豫知セラレタルヲ以テ、之ガ非常警備警戒上一般狀勢ヲ知ルノ必要ヲ認メ、警察部長ヲ始メ其ノ當面ノ主任者タル警務課長、保安課長及警察教習所長等午前二時四〇分頃相前後シテ登廳、未ダ餘震頻リナル間ニ於テ縣下各警察署ニ電話ヲ以テ其ノ被害狀況ヲ報告セシメタル處、其ノ被害甚大ナルモノアルヲ推知セラレタルヲ以テ、非常警備計畫ニ基キ午前三時三十分警察部及警察教習所勤務警察職員全部ニ對シ、非常召集ヲ發令シテ警察部ニ召集シ、四時三十分ヲ期シテ警察署ニ對シテ非常召集命令ヲ發シ、續イテ刻々ニ判明スル災害ノ情勢ヨリ事態愈々重大ナルヲ認メ、非常應援命令ヲ發シテ罹災地方ニ警察職員ヲ急派セリ。

非常應援命令ニヨリ急派シタル警察官吏ハ三月三日一〇五名、翌四日三名及五日三名ノ合計一一一名ニシ

テ何レモ所轄警察署長ノ指揮下ニ屬セシメタリシガ、三日當日ハ主トシテ罹災者ノ收容之ニ對スル被服、寢具、食糧ノ配給、負傷者ノ救療ニ全力ヲ注ギ四日以降ハ概ネ死者ノ檢視、行衞不明者ノ搜索、罹災者及流燒失倒壞家屋ノ調査ニ從事セシメ、一面各種援助團體ノ指揮督勵ニ努ムルト同時ニ事變ニ伴ツテ行ハル流言蜚語及暴利商人等ノ取締ニ當ラシメタリ。

（二）　罹災救護關係事項概要

罹災救護ニ關シテハ石黑知事ハ時ヲ移サズ縣廳員ノ召集ヲ行ヒ、警察官及縣官吏ヲ罹災地ニ派遣シ必要物資ヲ配給スルト共ニ日本赤十字社支部、縣及郡市醫師會等ト協議シ醫療救護班ヲ編成派遣シ、一方直ニ衞戍司令官、聯隊區司令官ニ通報協議シテ將兵並ニ在鄉軍人ノ援助ト寢具、食糧ノ配給ヲ受クルコト、シ、又第八師團司令部及橫須賀海軍部ト特ニ緊密ナル連絡ヲトリ、又必需品ノ配給本部ヲ本廳ニ、支部ヲ一關町ニ設ケ、本廳及千葉、遠野、岩泉、久慈ノ各警察署ニ兵站部ヲ設ケテ遺漏ナキヲ期シ告諭ヲ發布シテ救護ニ付縣民ノ蹶起ヲ促シ、更ニ特ニ各府縣ニ對シ救援方ヲ打電シタル外、國防統制委員會ヲ招集シテ救護計畫ノ徹底ト統制ヲ圖リ、緊急參事會ヲ招集シテ罹災救助基金ノ支出、警備費等ノ追加豫算ヲ議決シ、臨時縣會ハ卽時七百萬圓ノ縣債議決ヲナシ縣會議員協議會ヲ開キテ救護慰問竝ニ政府ニ對スル援助ノ要請、復舊事業等ニ付懇談ヲ遂グル等連日全廳員不眠不休萬全ノ方途ヲ講ジタリ。農林、內務、大藏各省ニ於テモ徹宵對策ヲ講ゼラレ議會モ閉會迄短時日ナリシニモ拘ラズ豫算ヲ可決シ、陸軍ヨリハ多數ノ毛布、外套、乾麵麭等ノ配給ヲ受ケ、盛岡衞戍各隊ヨリハ多數ノ將兵出動シテ連絡、警戒、道路、橋梁、電線等ノ復舊工事ニ從事シ、海軍ヨリ派遣ノ鎭守府及要港部ヨリ食糧其ノ他ヲ滿載セル五隻ノ艦艇ハ早クモ四日朝東海岸ニ現ハレ、農林、內務省ノ盡力ニヨリ迅速ニ白米ノ拂下、外套其ノ他ノ日常必需品ノ配給ヲ受ケ罹災民一同ヲシテ蘇生ノ思アラシメタリ。其ノ他各府縣ヨリ貨物自動車ノ應援、被服、食糧、慰問金等ノ寄贈多ク又縣ノ內外遠クハ滿洲國ニ於ケル翕然タル同情ニ依リ集リタル義捐金百十三萬圓ノ巨額ニ達シタリ。

義捐金ノ配分ニ付テハ義捐者ノ意志ヲ體シテ罹災民ノ飢餓寒威ヲ凌ガシムルト共ニ、速ニ生業ノ途ニ就カシメ復舊復興ヲ圖ラシメザルベカラザルヲ以テ、縣ニ於テハ愼重審議ノ結果左記ノ通配分方法ヲ決定シ八月一日縣ヨリ罹災地各町村長ニ對シ、ヨク義捐者ノ趣旨ヲ諒審シ適切ナル處置ヲトル樣通牒ノ上夫々配分ヲ了シタリ。

配分總額　百拾參萬六千貳百四拾七圓五拾參錢

第一　生業資金　　金七拾萬圓

第二　生產施設援助　　金貳拾壹萬七千九百圓

第三　死者ノ弔慰ニ關スル援助　　金壹萬六千九百圓

第四　災害豫防及備忘施設援助　　金拾貳萬四千六百六拾壹圓五拾參錢

第五　醫療救護援助　　金七萬六千七百八拾六圓

（三）　災害土木應急縣工事　　事業費　一六、〇〇〇圓

道路ノ缺壞、橋梁ノ流失、破壞等ノ被害ニ對スル應急的復舊工事トシテ道路四十一ヶ所、橋梁二十一ヶ所ニ卽時著手施行スルコト、セリ。

（四）　災害土木應急町村工事　　縣費補助　四、〇〇〇圓

前項同樣、道路、橋梁等ノ被害應急復舊ヲ要スル九十五ケ所ヲ三十三ケ町村ニ於テ施行セシムルコト、セリ。

（五）災害土木復舊縣工事　事業費　四六四、七六九圓

道路八十六ケ所、橋梁三十ケ所ニ付工事費ノ八割五分ノ國庫補助ヲ得テ施行スベク、此ノ外縣限工事トシテ道路百三ケ所經費三七、〇五三圓、橋梁三十一ケ所經費一〇、一一七圓ノ復舊工事ヲ施行スルコト、セリ。

（六）災害土木復舊町村工事　事業費　一、二二〇、八三一圓（補助一、〇三七、八三一圓　低資一八三、〇〇〇圓）

道路六十四ケ所、橋梁四十三ケ所、河川護岸三十五ケ所、海岸、港灣、船溜場、船揚場等四十九ケ所ニ付工事ヲ施行セシムベク、工事費ノ八割五分ヲ補助シ縣ニ於テ設計ヲ爲シ工事監督スルコト、セリ。

（七）街路復舊工事　事業費　一〇〇、〇〇〇圓（補助低資　八五、〇〇〇圓　一五、〇〇〇圓）

罹災地氣仙、大船渡、釜石、大槌、山田、田老ノ六ケ町村ニ於ケル市街地區街路ノ復舊整理ヲ行フモノニシテ、其被害市街地面積二十萬四千七百坪、街路面積約六十坪ナリ。事業主體ヲ町村トシ工事費ノ八割五分ヲ補助シ縣ニ於テ設計並監督ヲ爲スコト、セリ。

（八）住宅適地造成　事業費　三四五、〇〇〇圓　（低資　三四五、〇〇〇圓）

被害甚ダシキ住宅地帶ハ可及的之ヲ高所ニ移轉セシメ或ハ防浪設備ヲ講ジ、以テ將來再ビ慘禍ヲ蒙ルガ如キコトナカラシムベク住宅適地ノ造成計畫ヲ樹テ、明治廿九年並ニ今次ノ津浪浸水線ヲ標準トシ、適地造成ノ難否、其他ノ事情ヲ考慮斟酌シテ集團的ニ住宅ヲ建設セシムベク、町村ヲ事業主體トシ縣ニ於テ適地選定、設計及監督ヲ爲スコト、セリ。

適地造成箇所二十ケ町村四十四部落、移轉豫定戸數約二千戸。

（九）無動力漁船復舊　事業費　六三〇、四五〇圓（補助低資　三一五、四五〇圓　三一五、〇〇〇圓）

無動力漁船流失、破損等ノ被害約八千五百隻ノ内、先ヅ六千三百隻復舊計畫ノ下ニ修繕又ハ新造セシムベク、事業主體ヲ漁業組合又ハ產業組合及ビ當業者ノ共同經營ニ依ラシメ、低利資金ヲ供給シ、事業費五割ヲ補助、急速ニ之ガ遂行ヲ圖ルベク、而シテ新造船型ノ規格ヲ統一シ造船能率ヲ增進セシムベク、標準圖ヲ作成交付シ、尙船材ハ國有林ノ拂下ヲ斡旋シ、船大工ノ供給ヲ爲スコト、セリ。

（一〇）動力付漁船復舊　事業費　一、四八二、二五〇圓（補助低資　七四一、二五〇圓　七四一、〇〇〇圓）

動力付漁船被害約八百隻ノ內、前項無動力漁船ト共ニ復舊ヲ要スルモノ五百九十三隻ヲ一隻平均二千五百圓ノ見込ニテ低利資金ヲ供給、事業費ノ五割ヲ補助シ、船型標準設計圖ヲ交付シテ可及的規格統一ヲ圖リ、又發動機ハ農林省水產局ニ依賴、優良工場ヨリ共同購入セシメ、船材、船大工モ亦同樣縣ニ於テ斡旋助成スルコト、セリ。

（一一）漁船復舊事業資金融通　事業費　一七〇、〇〇〇圓　（低資　一七〇、〇〇〇圓）

漁船ノ復舊ト共ニ之ガ事業資金ヲ必要トスルヲ以テ一隻ニ付貳百圓、八百五十隻分ノ低利資金ヲ供給スルコト、セリ。

（一二）漁具、漁網復舊　事業費　二、〇六八、六八〇圓（補助低資　六七一、六八〇圓　一、三九七、〇〇〇圓）

漁船ノ復舊ト共ニ小漁具五千九百十八隻分、漁網曳網類六十統、旋網百三十統、延繩二百隻分、刺網二百

反、定置漁具小、千三百五十統、大、五十統ヲ復舊セシムルコト、シ、定置漁具設備費ニ對シ二割五分
（一統一萬圓ヲ超ユルモノニ對シテハ補助セス）其他漁具、漁網設備費ニ對シテハ五割ノ補助金ヲ交付スルコト、セリ。

（一三）水產共同施設復舊　事業費　五二二、六〇〇圓（補助低資　二二二、六〇〇圓　三〇〇、〇〇〇圓）

從來個々ニ經營セル水產諸施設ハ可及的之ヲ共同經營トシテ經濟的ニ利用セシムル方針ノ下ニ共同設備ヲ爲サシメ、販賣所二十五ケ所、倉庫五十ケ所、海苔養殖場二十四萬坪、海苔乾燥場四百八十ケ所、牡蠣養殖場百二十臺ノ復舊ヲ圖リ、各漁業組合ヲシテ施行セシメ、事業費ノ五割ヲ補助シ、又共同製造事業資金及共同養殖場設備資金ヲ供給、助成スルコト、セリ。

（一四）水產個人製造所復舊　事業費　二四〇、〇〇〇圓（低費　二四〇、〇〇〇圓）

個人製造所ノ被害ニシテ前第十一項ノ共同施設ニ依リ難キモノニ對シ、低利資金一ケ所ニ付貳千圓約百二十ケ所分ヲ供給シテ復舊助成スルコト、セリ。

（一五）船溜、船揚場復舊　事業費　二四、一二五圓（補助低資　一八、一二五圓　六、〇〇〇圓）

船溜、船揚場ノ被害ニシテ災害復舊工事トシテ施行スルモノ、外、五ケ所ノ復舊ヲ圖ルコト、シ一ケ所貳千圓乃至壹萬圓ノ事業費目論見七割五分ヲ補助スルコト、セリ。

（一六）築磯復舊　事業費　七二、〇〇〇圓（補助低資　三六、〇〇〇圓　三六、〇〇〇圓）

被害三十ケ所ニ付平均貳千四百圓ヲ見込ミ時局匡救事業ノ分ト併テ施行スコト、セリ。

（一六）耕地復舊　事業費　五九八、〇三五圓（補助低資　三五五、〇三五圓　二四三、〇〇〇圓）

罹災地ノ全町村ノ被害耕地ニシテ急速復舊工事ノ施行ヲ要スルモノ七十四地區、地積四百二十二町歩並防潮堤一千五百九十五間、道水路二萬三千五百八十四間、護岸其他一千二百三十二間、二百三十二ケ所ノ復舊ヲ計畫シ、耕地復舊ハ事業費ノ二分ノ一、其他設備ハ三分ノ二ノ補助ヲナスコト、セリ。

（一八）農作物作付種苗購入配付　事業費　二三、一八三圓（補助　二三、一八三圓）

罹災農家一千五百七十戸ニ對シ、先ヅ自家食料補給用トシテ馬鈴薯ヲ栽培セシムベク種薯一戸當平均四俵ヲ郡農會ヲシテ斡旋セシメテ之ヲ配付シ、併テ之カ作付ニ要スル肥料一戸當參圓及農具、鍬二挺、肥料桶一荷宛ヲ配付シ、尙次季作付用農作物種苗トシテ粟、大豆、其他雜穀、蔬菜種子ヲ夫々時季ニ應ジ縣農會及郡農會ヲシテ斡旋交付セシムルコト、セリ。

（一九）農具復舊　事業費　一二五、八〇〇圓（補助低資　六二、八〇〇圓　六三、〇〇〇圓）

流失、燒失セル農具ノ復舊ヲ助成スベク之カ購入ニ對シ、一戸當八拾圓以內ニテ二分ノ一ノ額ヲ補助スルコト、シ、郡農會ヲシテ共同購入ヲ斡旋セシムルコト、セリ。

（二〇）納舍及肥料舍復舊　事業費　一〇〇、四四〇圓（補助低資　五〇、四四〇圓　五〇、〇〇〇圓）

流失、燒失、倒壞セル納舍及肥料舍ヲ復舊セシムベク、罹災農家一千二百六十一戸分、一戸平均八拾圓以內ニテ復舊費ノ二分ノ一ノ額ヲ交付助成スルコト、セリ。

（二一）肥料資金融通　事業費　九一、〇〇〇圓（低資　九一、〇〇〇圓）

罹災農家二千五百二十五戸ニ對シ一戸平均參拾六圓ノ低利資金ヲ供給スルコト、セリ。

（二二）家畜復舊　事業費　一八、〇〇〇圓（補助低資　九、〇〇〇圓　九、〇〇〇圓）

農業經營上ニ於ケル畜力利用ノ點ヨリ急速復舊ヲ圖ルノ要アリ。被害家畜馬六十七頭一頭平均百圓、牛六十六頭一頭平均八十圓、豚六百二頭一頭平均拾圓ヲ見込ミ購入ヲ斡旋シ、之ニ對シ二分ノ一ノ補助金ヲ交付スルコト、セリ。

（二三）家畜飼料購入助成　事業費　二七、五〇七圓（補助　一三、五〇七圓　低資　一四、〇〇〇圓）

家畜飼料ヲ流失セルモノニ對シ家畜飼料ノ購入ヲ助成スベク、馬七百九十頭分一頭一日貳拾錢五十日分、牛三百三頭分一頭一日貳拾錢五十日分、豚千七百八十七頭分一頭一日五錢百八十日分ヲ見込ミ購入費ノ半額ノ補助金ヲ交付スルコト、セリ。

（二四）蠶種購入助成　事業費　九、三七五圓（補助　九、三七五圓）

罹災養蠶者一千二百五十戸ニ對シ蠶種ヲ一戸平均五十瓦、單價拾五錢、金七圓五十錢全額補助スルコト、セリ。

（二五）蠶具復舊　事業費　四〇、〇〇〇圓（補助　二〇、〇〇〇圓　低資　二〇、〇〇〇圓）

蠶具ノ流失セルモノ約五百戸ニ對シ一戸八拾圓以內ニテ半額ヲ補助シ、蠶具一式ヲ復舊セシムベク春夏秋蠶ノ各蠶齡ニ應ジ、各郡養蠶業組合ヲシテ購入ノ斡旋ヲ爲サシムルコト、セリ。

（二六）稚蠶共同飼育所設置　事業費　二〇、四〇〇圓（補助　一〇、四〇〇圓　低資　一〇、〇〇〇圓）

罹災養蠶家ニシテ不完全ナル急造家屋等ニテ養蠶ヲ爲スモノ多カルベク、蠶作ニ最モ影響多キ稚蠶期飼育ノ安全ヲ期スル爲主要地赤崎、綾里、唐丹、大槌、鵜住居、船越、磯鷄、田老ノ八ケ町村養蠶實行組合ヲシテ、一ケ所平均二千六百圓ヲ以テ稚蠶共同飼育所ヲ設置セシムルコト、シ、事業費ノ半額ヲ補助スルコト、セリ。

（二七）桑園復舊　補助金　一二、五〇〇圓

被害桑園ハ時局匡救桑園整理改植事業トシテ約五十町歩ヲ復舊セシムベク、一反當リ二十五圓ノ奬勵金ヲ交付スルコト、セリ。

（二八）炭材購入資金ノ融通　事業費　一三四、〇〇〇圓（低資　一三四、〇〇〇圓）

罹災製炭業者二千六百八十一人ニ對シ、平均五拾圓ノ低利資金ヲ融通シ、炭材ノ購入及製炭ヲ助成スルコト、セリ。

（二九）商工業復舊　事業費　四九七、〇〇〇圓（補助　一一八、〇〇〇圓　低資　三七九、〇〇〇圓）

罹災商工業者千八百六拾戸ノ復舊ヲ助成スベク工場及店舖ノ設備ニ對シ資金ヲ供給シ、二分ノ一ノ補助金ヲ交付シ、且運轉資金ヲ供給シ、又海運業者四十九戸ニ對シ資金並ニ十分ノ一ノ補助金ヲ交付シテ運送船ノ復舊ヲ助成スルコト、セリ。

（三〇）産業組合ニ依ル住宅復舊　事業費　七二七、〇〇〇圓（低資　七二七、〇〇〇圓）

十六ケ町村五十五部落ニ對シ產業組合組織ニ依リ合理的漁村部落建設計畫ノ下ニ低利資金ヲ供給シ、第八項所載ノ住宅適地造成地ニ各々集團的ニ一千九百餘戸ヲ移轉建設セシメ、且改善施設トシテ共同作業所、共同倉庫、共同浴場、托兒所、集會所、冠婚葬祭具ノ設備等ヲ爲サシメ、隣保共助ノ美風ヲ發揚シ、以テ復舊更生セシムルコト、セリ。

（三一）產業組合事業資金融通　事業費　七〇〇、〇〇〇圓（低資　七〇〇、〇〇〇圓）

震災直後應急資金トシテ中央金庫ヨリ五十萬圓ノ低利資金ノ供給ヲ受ケ、貸出ヲ爲スト共ニ産業組合普通
地方資金七年度分ヨリ貳拾萬圓ノ融資（中金經由）ヲ受ケ信用組合聯合會ヨリ轉貸ノ方法ニ依リ供給ヲ爲
サシムルコトセリ。

（三二）　公營住宅又ハ住宅組合ニ依ル住宅復舊

事業費　三二七、〇〇〇圓（低資　三二七、〇〇〇圓）

罹災住宅ノ復舊中第三〇項產業組合組織ニ依ラザルモノニ對シテハ分讓式公營住宅及住宅組合ニ依ラシム
ルコト、シ、七ケ町村ニ對シ約五百六十戸分ノ低利資金ヲ供給、復舊セシムルコト、セリ。

（三三）　郵便局舍復舊

事業費　五、九〇〇圓（低資　五、九〇〇圓）

罹災郵便局舍七ケ所（末崎、綾里、越喜來、廣田、田野畑、田老、種市）ヲ復舊セシムベク低利資金ヲ供
給、助成スルコト、セリ。

（三四）　市街地建築物法ノ適用

釜石町ハ人口三萬ヲ有シ相當ノ市街地ヲ形成シアリ。市街地建築物法ヲ適用セラルベキヲ以テ、之ニ對シ
建築線ヲ指定スルコト、セリ。

一、一六三圓

（三五）　防潮林造成

苗圃費

防潮林造成ノ必要ヲ認ムル罹災三十二ケ町村ニ百十四ケ所ニ對シ苗圃ヲ設置セシムルコト、セリ。

（三六）　小學校舍復舊

事業費　五、〇〇〇圓（低資　五、〇〇〇圓）

氣仙郡廣田村實業補習學校、水產實習所及上閉伊郡鵜住居村小學校々舍流失ニ付低利資金ヲ融通シテ復舊
セシムルコト、セリ。

六四、〇〇〇圓（低資　六四、〇〇〇圓）

罹災地二十五ケ町村ノ教員住宅ヲ復舊セシムル爲一戸平均八百圓ノ見込ニテ約八十戸ヲ建設セシムルコト
、セリ。

（三八）　罹災兒童就學奬勵

補助費　四、〇〇〇圓
低資　四、〇〇〇圓

四三、九四二圓

罹災兒童五千八百一九人、救濟ノ爲國庫ヨリ兒童就學奬勵費ノ交付ヲ得テ學用品一人ニ付參圓以內、被服
費一人五圓以內、給食一食四錢以內ヲ給與スルコト、セリ。

（三九）　養老育兒院設置

事業費　八、〇〇〇圓（補助　四、〇〇〇圓　低資　四、〇〇〇圓）

扶養義務者ヲ失ヒ孤獨トナリタルモノ及癈人トナリタルモノ等ヲ收容保護センガ爲罹災地ノ中央部ニ建設
坪數約八十坪、人員約四十人位ヲ收容シ得ベキ養老育兒院ヲ設置スルコト、セリ。

（四〇）　公益質屋助成

事業費　五〇、〇〇〇圓（低資　五〇、〇〇〇圓）

罹災地町村ニ於ケル公益質屋ノ今後ニ於ケル經營ノ困難ヲ豫想シ、運轉資金ノ增額ヲ圖リテ一般庶民ノ金
融ニ便セシムルコト、セリ。

（四一）　公設浴場設置助成

事業費　二五、〇〇〇圓（低資　二五、〇〇〇圓）

罹災六ケ町村七ケ所（高田、釜石、宮古、山田、田老一ケ所大槌二ケ所）ノ罹災民集團地域ニ町村公設浴
場ヲ設置セシメ、保健衞生ニ資セシムベク普通社會事業資金ノ供給ヲ得テ之ヲ爲サシムルコト、セリ。

（四二）　防疫

國費　二、五八一圓

罹災町村ニ醫師及防疫職員ヲ增設シ傳染病豫防、消毒、感冒、痘瘡ノ豫防、各種消毒藥ノ配給、消毒的臨時淸潔法ニ當ラシメ以テ防疫ノ萬全ヲ期スルコトヽセリ。

（四三）警　備　　國庫補給　一〇四、五二四圓

罹災地方ニ於ケル警察力ヲ充實シ、警備ノ萬全ヲ期スル爲警部補一名巡査四名ヲ增員シ、又警察電話線延長百四里二十九町ヲ復舊架設シ、外巡査駐在所三ケ所ノ復舊ヲ圖ルコトヽセリ。

三　宮　城　縣

（一）應急救護施設概況

（一）縣ノ救護措置

（イ）災害善後委員會ノ組織

三月三日午前、知事ハ廳內幹部ヲ召集シテ緊急會議ヲ開キ罹災救護事務開始ノ件ヲ諮リ、直ニ災害善後委員會ヲ組織シ救護部、配給部及復興部ノ三部會ヲ設ケ、又義捐金品係及物品ノ調達、發送係ヲ設ケ救護事務ノ圓滑ヲ期シタリ。

（ロ）救護出張所ノ開設

救恤品ノ配分及救護事務ノ圓滑、機敏ヲ促進セシムル爲、縣直轄地ノ外石卷、志津川、氣仙沼ニ出張所ヲ設ケテ縣吏員ヲ駐在セシメタリ。（四月五日廢止）

（ハ）罹災救助基金ニ依ル救助

本基金ヲ運用シテ食料救助ヲ始トシ各種ノ救助ニ努メ、罹災町村ニ對シ取敢ヘズ一八、八三五圓ヲ前渡シ救護上ノ便ニ供シ、別ニ政府所有米ヲ拂下ゲテ配給シ、其ノ他被服、小屋掛、學用品等ヲ購入配給スル外埋葬費、就業費ヲモ支出スルコトヽシ、之ガ爲金額八六、五八二圓ヲ豫定セリ。

（ニ）醫療救護

縣ニ於テハ恩賜金ニ依ル巡回診療班二班ヲ編成シ、（各班醫師、看護婦、藥劑師、巡査部長各一名計四名）各方面ノ救療ニ從事セシメタリ。其ノ他第二師團、東北帝國大學、醫師會、日本赤十字社支部等ニアリテモ夫々救護班ヲ編成シ縣ト連絡シテ施療ヲ行ヒタリ。

（ホ）小學校兒童ノ救護

小學兒童ノ救濟ハ罹災救助基金ニ依リ一、五九二圓ヲ支出シテ學用品ヲ購入配布セル外、教育會ヨリノ義捐金四、五二〇圓、救恤品中ヨリ教科書一二、〇〇〇冊、雜記帳三、〇六〇冊ヲ夫々罹災小學校ヘ分配シテ救濟ニ努メタリ。

（ヘ）義捐金品ノ募集及配給

縣ニ於テハ三月四日全國ニ向ヒ義捐金品ノ募集ヲ開始シタルニ四月十二日迄ニ一二五、三二二圓ノ義捐金ヲ受理シ夥シキ衣食住品及學用品等ノ寄贈ヲ受ケタルヲ以テ被害ノ程度、今後ニ於ケル生活ノ難易等ヲ考慮シテ分配標準並方法等ヲ決定シテ可及的速ニ各罹災民ニ配給セリ。

（二）

其ノ他ノ救護

（イ）陸海軍ノ救援

第二師團ヨリ罹災地特ニ軍人遺族ヲ慰問ノ爲將官ヲ派遣セル外、救護班ヲ派遣シテ罹災民ノ救護ニ當

ラシメ、尚直ニ毛布二、五〇〇枚ヲ給與セラレタリ。其ノ他工兵第二大隊ヨリハ二作業隊ヲ出動セシメ橋梁ノ架設、倒潰家屋ノ解體、障碍物ノ排除及電話ノ架設等ニ從事セシメ、交通、通信上ニ大ナル便益ヲ與ヘラレタリ。

（ロ）帝國軍人後援會ノ救護

日支事變關係ノ出動軍人並ニ遺家族ニ對シテハ一般救護ノ外、帝國軍人後援會、横須賀鎭守府ヨリハ驅逐隊ヲ急派シテ海上方面ノ救護ニ當ラシメ、更ニ三月五日軍艦嚴島ハ救恤品、毛布、襦袢、雨合羽、乾麵麭、罐詰、其ノ他ノ慰問品等ヲ搭載シテ釜石港ニ來リテ之等ヲ寄贈セラレタリ。

（二）災害土木復舊縣費工事　事業費　五一六、九七二圓

津浪ノ爲破壞流去セラレテ交通上直ニ復舊ヲ要スルモノ道路二五箇所、橋梁五箇所、河川二箇所、海岸工事（護岸、堤防、突堤等）五五箇所ニ付事業費ノ八割五分ノ國庫補助ヲ得テ施行スルコト、セリ。

（三）災害土木復舊町村費工事　事業費　六八、二〇四圓

前項同樣直ニ復舊ヲ要スルモノ道路八箇所、橋梁二箇所、河川一箇所、海岸工一七箇所ニ付事業費ノ八割五分ノ國庫補助ヲ得テ施行スルコト、セリ。

（四）住宅地造成及住宅復舊　事業費　五三一、五〇〇圓

被害甚シキ住宅地帶ハ可及的之ヲ高所ニ移轉セシメ、以テ將來再ビ慘禍ヲ蒙ルガ如キコトナカラシムベク住宅地ノ造成計畫ヲ樹テシメ、之ガ目的達成ノ爲政府ヨリ一九五、〇〇〇圓（全額利子補給）ノ低利資金ノ融通ヲ受ケ、且工事費ニ對シ六〇、〇〇〇圓ヲ義捐金ヨリ補助スルコト、シ、更ニ住宅復舊資金トシテ

七六、五〇〇圓ノ低利資金ノ融通ヲ受ケ、町村ヲ經テ各罹災者ニ轉貸シテ復舊セシムルコト、セリ。

又津浪災害地ニ臨時海嘯地家屋復興計畫委員會ヲ設ケテ建設計畫ノ審議機關タラシメ、更ニ六月三十日海嘯罹災地建築取締規則ヲ設定シテ危險住宅ノ建設ヲ禁止シ、建設區域ヲ指定スルコト、セリ。適地造成箇所十五ケ町村、移轉豫定戸數八〇三戸ナリ。

（五）無動力漁船復舊　事業費　一九七、一〇〇圓

無動力漁船ニシテ流失破損等ノ災厄ヲ受ケタルモノ一、九七一隻ヲ急速復舊セシムルノ計畫ノ下ニ國庫補助金ト低利資金ノ供給トヲ得テ之ガ助成ヲナスコト、セリ。之ガ爲水產業復舊補助規則ヲ制定セリ。

（六）動力付漁船復舊　事業費　一九二、五〇〇圓

動力付漁船七七隻ヲ復舊セシムル計畫ノ下ニ前同樣ノ方法ニ依リ之ガ助成ヲナスコト、セリ。

（七）漁具、漁網復舊　事業費　二二六、八〇〇圓

津浪ノ爲破損流失セル漁具、漁網ハ漁民生計ノ爲是亦速急復舊ノ要アリシニ依リ、小漁具九九〇個復舊費一九、八〇〇圓、旋網類一〇統四〇、〇〇〇圓、刺網類四〇反四〇、〇〇〇圓、定置漁具九〇統一二〇、〇〇〇圓ノ復舊計畫ノ下ニ第五項同樣ノ方法ニ依リ助成スルコト、セリ。

（八）水產共同施設復舊　事業費　一六〇、〇〇〇圓

津浪ノ害ヲ受ケシ水產諸施設ハ速ニ復舊ノ要アリ。此ノ際從來個々ニ經營セル諸施設ハ可及的之ヲ共同經營トシテ經濟的ニ利用セシムル方針ノ下ニ、共同製造場三九箇所經費九一、二四四圓、共同倉庫一五箇所經費一〇、七九〇圓、共同養殖場四一箇所經費五六、五〇七圓ノ共

同設備ヲ爲サシムルコト、シ、第五項同樣ノ方法ニ依リ之ガ助成ヲナスコト、セリ。

（九）船溜、船揚場復舊　事業費　六〇、〇〇〇圓

津浪ノ爲破損セラレタル船溜、船揚場ニシテ應急的ニ復舊ヲ要スルモノ七ケ町村十箇所ニ對シ、町村或ハ漁業組合ヲ施行主體トシテ復舊セシムルコト、シ、補助金四五、〇〇〇圓ト低利資金一五、〇〇〇圓トヲ供給スベク豫定セリ。

（一〇）築磯復舊　事業費　九、六〇〇圓

津浪被害箇所七ケ村二四箇所ノ魚礁投石及磯掃除事業ニ對シ、村及漁業組合ヲ事業主體トシテ第五項同樣ノ方法ニ依リ復舊セシムルコト、セリ。

（一一）耕地復舊　事業費　三六、九二九圓

罹災耕地ニシテ急速復舊ヲ要スルモノ十四ケ町村八十五箇所、水田五〇町二反一八歩、畑五一町四反六畝二九歩ニ對シ復舊費ノ二分ノ一ハ補助、二分ノ一ハ低利資金ノ融通ヲナシテ復舊セシムルコト、セリ。

（一二）農作物作付種苗購入配付　經費　八、〇一〇圓

罹災農家ニシテ自家用食糧、農産物及種苗ノ全部又ハ大部分ヲ亡失セル農家一、一八六戸ニ對シ、馬鈴薯、水稻籾、大豆、小豆、蕎麥、甘藷ノ種苗ヲ購入配付スル計畫ヲ樹立シ、各町村毎ニ配當額ヲ定メ、配當額ノ範圍内ニ於テ町村長ヲシテ給與スベキ種苗ヲ購入セシメ、無償ニテ配付セシムルコト、セリ。

（一三）農具購入助成　補助金　一三、二〇〇圓

罹災農家ニシテ農具ノ全部又ハ大部分ヲ亡失セル農家三八二戸ニ對シ、平鍬、ホーク、唐鍬、シヨベル、三本鍬、鎌、除草器、連枷、肥桶、篩籠、莚等及三戸以上ニテ共同購入スル唐箕、脫穀器、萬石、籾摺器等ノ購入ニ對シ町村ヲシテ之等ノ經費ノ二分ノ一以内ニシテ一戸當八拾圓ヲ超ヘザル補助ヲナサシメ、縣ハ之ニ對シ全額ノ補助金ヲ交付スルコト、シ、尙補助金以外ハ低利資金ヲ融通スル如クセリ。

（一四）納舍及肥料舍等建設助成　補助金　九、五六〇圓

罹災農家ニシテ納舍、肥料舍ノ全部又ハ大部分ヲ亡失セル農家二三九戸ニ對シ納舍、肥料舍ノ建設ヲ助成スルコト、シ、前項同樣ノ助成方法ヲ以テ補助金ヲ交付シ、低利資金ヲ融通スルコト、セリ。

（一五）耕馬購入補助　補助金　一、〇〇〇圓

罹災農家ニシテ災害ノ爲斃死シタル耕馬ノ急速補充ヲ要シ新ニ馬ヲ購入スル者ニ對シ、購入費ノ二分ノ一以内一頭ニ付七十五圓ヲ超ヘザル限度ニ於テ補助金ヲ交付シ、補助金以外ハ低利資金ヲ融通スルコトトセリ。

（一六）家畜飼料購入助成　補助金　九八五圓

罹災農家ニシテ馬匹ノ飼養ヲ爲スモノニ對シ、災害當日ヨリ五十日間ニ於ケル飼養費ニ對シ、其ノ二分ノ一以内一頭一日十錢ヲ超ヘザル限度ニ於テ補助金ヲ交付スルコトトセリ。

（一七）蠶具購入助成　補助金　七、〇〇〇圓

罹災農家ニシテ蠶具ノ全部又ハ大部分ヲ流失又ハ潰滅セル一七五戸ニ對シ、蠶箔、蠶架、蠶蓆、蠶網等ヲ購入スルモノニ其ノ費用ノ二分ノ一以內ヲ補助スルコトトシ、個人申請若ハ養蠶實行組合長ヨリ申請セシムルコト、セリ。

而シテ補助金以外ハ低利資金ヲ融通スルモノトス。

（一八）稚鰹共同飼育所設置助成　補助金　一〇、四〇〇圓

家屋ノ流失又ハ全潰セル養鰹家ハ不完全ナル急造家屋ニ依リ養鰹ヲ爲スモノ多キヲ以テ、飼育上ノ不安尠カラズ、依テ鰹作ニ最モ關係深キ稚鰹飼育ノ安全ヲ期スル目的ヲ以テ被害甚シカリシ地方ノ八養鰹組合ヲシテ一ケ所平均二千六百圓ヲ以テ稚鰹共同飼育所ヲ設置セシムルコトトシ、事業費ノ二分ノ一ノ補助金ヲ交付シ、他ノ二分ノ一ハ低利資金ヲ供給スルコトトセリ。

（一九）桑園復舊助成　補助金　二〇、八一五圓

罹災桑園一〇二町五反歩中復舊ノ急ヲ要スルモノ八十三町二反六畝歩ニ對シ國庫ヨリ二〇、八一五圓ノ助成金ノ交付ヲ受ケ一反歩ニ付二十五圓ノ助成金ヲ交付スルコトトセリ。

（二〇）商工業復舊　補助金　三九、〇〇〇圓

罹災工場、店舗數四百四十五棟、運送船十六隻ノ復舊ヲ助成スル爲、復舊總豫算額二十三萬九百四十圓ニ對シ、十二萬八千圓ノ低利資金ノ融通ト三萬九千圓ノ國庫補助金ノ交付トニ依リ之ガ復舊ヲ助成スルコトトセリ。

（二一）各種資金ノ貸付

肥料資金三二、〇〇〇圓、鰹室復舊資金九〇、〇〇〇圓、漁船復舊事業資金一六、〇〇〇圓、共同製造場事業資金四五、〇〇〇圓、個人製造所復舊資金一六〇、〇〇〇圓、共同養殖設備事業資金二〇、〇〇〇圓、工場、店舗、運轉資金六〇、〇〇〇圓ヲ何レモ低利資金ノ供給ヲ受ケテ貸付スル計畫ヲ樹立セリ。

昭和九年三月二十五日印刷
昭和九年三月三十一日發行

農林省山林局

印刷者　竹田益平　東京市葛飾區小菅町一、二八四

印刷所　小菅刑務所　東京市葛飾區小菅町一、二八四
電話淺草　五〇二番　三九三〇番

北E100